

〈資料〉

「西周日記」

——明治二十六年七月～十二月——

川 崎 勝

本稿は、「西周日記」——明治二十六年一月～六月——（『南山経済研究』第35巻第1号、2020年6月）の続きをなすものである。

「西周日記」については、「西周日記」——明治二十年一月～六月——（『南山経済研究』第14巻第3号、2000年2月）の「序文」を参照されたい。

「西周日記」は、年を経るとともに、さらに病状により筆には乱れが多くなり、判読しにくい文字が頻出する。極力読み取るよう努力はしたが、十分ではない部分が多くなっている。多くの誤読があると思われるので、引き続き、ご叱正を乞いたい。

本号の翻刻に当たって、前号までの校訂方針を踏襲し、若干整理した。日記帳（半紙版20行罫紙、二折）の上段枠外には、曜日のほか、追記がある。便宜的に、枠外の記事は『 』で括り、曜日は日付の次に、追記は一日の記述の終わりに置いた。また、見消は二重線＝、塗潰しは■、不読文字は□、長文および字数不明のものは□□ □□で示した。なお、「鯖塩」などの傍点は、西自身による訂正、「塩鯖」の意。「日記」本文には、○ごとに簡条書されており、句読点はほとんどない。読みやすさを考慮して、やや細かく読点のみを付した（なお、原本にある読点は「、」で残した）。旧漢字は常用体、合字は開き、変体仮名は常用の仮名に統一した。また、固有名詞をはじめ、宛字と思われるものは極力そのままに、誤字についても多くはそのままにし、適宜〔ママ〕あるいは〔訂正文字〕を付した。〔 〕は、翻刻者の註記である。〔 〕のない傍註、圈点、括弧などは、原文のものである。

「西周日記」

(明治二十六年七月～十二月)

七月一日『土』早起、湯殿に洗顔、灌水、了て就食坐、鶏卵二枚、麵包一切レ、其後二階に昇し、裏便所行く、小水一度、○此時舂子、豊住へ行く、○金太も二階へ来ル、○本日晴、併し白雲無きにあらず、早朝みつ子は□山へ帰る、○早朝佐々木信綱写真ノ事にて、舂子を請託に来る、諾し遣はす由ナリ、午後みつ子御序ナリといふ、此日舂子、写真ノ後、婦衛生会へ臨ミ、其後岡君ノ病氣訪、浦太郎ノ咄あり、其前豊住へ行く、夕方豊好返礼(住)に来ル、大宗ノ贈遺、且返書等あり、晩食鰻鯉重、茄子、

七月二日『日』晴、早起、湯湧、昨夜ノ鰻鯉重、茄子礼出つ、其後湯殿にて灌水、洗面、了て茶ノ間へ来ル、安扶之、其鶏卵二枚、麵包一切レ、了て二階昇る、○舂子は此時瀬脇へ行く、直に癩ノ萌なれはなり、○大野直和へ返答ヲ出ス、○其後朝ノ内ニ岡令夫人来る、昨日舂子見舞ひ、且光子芝居行き礼、挨拶為ナリ、氷水を供す、不食して去る、其後東京学子女会雑誌、及ヒ小嶋信民(女)ノ遊楽館ノ計算書を読む、○其後四時より、遽に大磯へ帰ることに決ス、六時五十九分大磯着、

七月三日『月』晴、早起、湯殿にて洗顔、灌水、復座、鶏卵三枚、麵包一切レ、了て表便所へ小水不通、復座、湿電一回、新薬なり、菊此を司る、○本日午後は海水に赴かんとす、○其後午睡一時間、○其後午餐は鮎ノ塩焼、白飯二杯、(其前小水ニ行く、出てす)、桃ノ煮物等ナリ、○其後海水に行く、勃平も共にす、帰路疲るゝ甚し、小□に憩ひ、ラムネ一本を飲ミ、再び、本日は竹蔵居らす、かゝ□はかり、病氣なるか、○其後行水半浴、○着新衣、○晚餐は茄子ノ料理、豆腐、帆立貝ノ干物、新□ノ漬物等ナリ、茄子ノ汐□□□□□、

七月四日『火』晴、此日朝北風、其後南風に変ず、朝早起、湯殿にて洗顔、灌水、其後復座、鶏卵一枚、麵包一切レ、牛乳一合、○其に麦酒一杯、裏便所へ行く、(行)行く、小水一度、其後湿電を行ふ、機械損して利かす、○乾電を行ふ、涼風に感じて睡を催ふし、遂に此を止む、○午餐は鰯ノ酢入り、因源ノ莢の漬物ナリ、○時事新報も午前に来る、異事無し、横浜太田町一丁目に火事あり、○勃平、朝七時起床、其朝食は、夜高麗山に登、帰宅後鰯十本を食し、其後池辺へ出てゝ蛙を突き、其後就微積分□□復習す、○其後勃平扶けて坐敷を下り、為吉扶けて四足亭に行至り、座にて巻煙草を吹き吹かし、復座、順序午前、其後安行水入湯するを報ス、其後行水入浴、此時安□(實)かるゝこと甚し、此時電報ノ声あり、其後勃平行水入浴、了て舂子、茄子を費に行く、○晚餐は金目鯛ノ味噌汁、シガ芋、牛ノ罐詰ナリ、□□□摩塚ノ□□からナリ、

七月五日『水』朝曇、雨昨夜来なり、今朝九時後より晴と変す、此誤なり、午後再雨なるなり、大剝裂を見ゆ、○朝灌腸、其後湯殿にて洗顔、灌水、其後就座、^{〔卵〕}鶏一枚、麵包二切、其後裏便所ニテ小水一度、其後湿電一回、新葉なるを以す、勃平、菊此を消息し、少く利くを得たり、○石川お勢さん談に来る、○其前植木屋、花葵其他を、庭梅ノ賑にて、団子一ツ、^{〔菓カ〕}麦菓子一ツを食ふ、○其後また小水に行く、裏便所へ、○午餐は豊住ノ牛肉と牛蒡とノ煮物、黄瓜揉ナリ、○其後裏手水所、小水は前に同し、○午後三時頃より再び曇天雨となる、此時時雄ノ奉状一通至しの事あり、○五時前に水浴、既に揚る、晚餐は牛ノ佃煮、桃ノ煮□、茄子の□、頗僅ナリ、其後入蚊帳、○、

七月六日『水』^木本日大失策、其後ハ記^{さす}せり、就^し眠、○本日東京より荷物着にて、諸種之賑アリ、第一昼屋、第二鍛冶屋、第三大^上工、第四植木屋、第五建具屋来、永見、富雄、時雄、きよ子より、書状到来ナリ、

七月七日『金』曇、北風寒し、朝湯殿にて洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、からし漬茄子少し、鶏卵^{本日も無し}、湿電一回、菊此を司用ス、ケ所も同し、余り強からず、○其後裏便所へ行く、小水一度、○勃平、八時前起床、就食、其後微積分術に従事ス、○^{〔読〕}売新聞早く来る、○午餐は鰻鯉ノ蒲焼、為吉の料理なり、五時後入浴行水、^{〔ママ〕}剃鬚、其後揚湯、晚餐に就く、此時再雨降る、○石川お清さん一寸豌豆の煮豆を以て談に來り、其寿丸夫婦より、時雄ノ葛衣ノ礼を申越ス、○本日も植木職三人、夕方まで働き居る、□□牛肉、豚の煮□□□、白飯三杯、□□□□□ 味佳ナリ、其後水戸薬一服、□□就寝、本日より小暑となる、

七月八日『土』早朝灌腸、其後湯殿に行き、洗顔、灌水、了て就座、麵包一切レ、牛乳一合、其後裏便所ニテ小水一度、其後湿電一回、菊司之、部位も同し、旧葉能く利く、○朝餐は辛漬茄子、豚ノ胡椒入、○植木職人三人来ル、如常時、○勃平七時半起床、就食ノ後微積、○午餐は帆立貝ノ細織煮物、豚胡椒漬、茄子ノ辛し漬等、白飯三杯、○貞は本日三時半ノ瀛車にて、堀越ノ妹ノ病気に介抱に行き、明日一番ノ瀛車にて帰宅ノ由ナリ、○其後アポプレキシール九十粒服用ス、○午餐後一時午睡、時事新報は午前に来ル、昨七日皇后陛下は青山へ行啓旨廟堂御静謐御親睦ノ状、察スルニ余あり、□□□□□ノ□ハ夏陽ノ巡撫□□□□ならんと之評得て背□^{〔二重書〕}を得たりと謂可し、○晚餐は 晚餐はいんげん莢ノ胡麻漬、豚胡椒煮、牛蒡牛肉煮□□□ 味ニテ、アポプレキシール九十粒、就寝、本日紳六郎へ書状を書かんと思ひたれ、午睡すと極めたり、

七月九日『日』晴、本日東京行、○六時三十分大磯発、九時前新橋着、○着後直に葛曼頭一ツを食ふ、午餐は□□ノ煮物、其他肴なり、白飯二杯、午餐後、梅に手を引れて表手水所へ行く、晚餐風月堂二三種なり、晚餐後アポプレキシール丸粒、明日は壮士芝居、朝九時より始まると、○紳六郎への書状は十三日迄に、只今郵便局へ当

「西周日記」

て出たる事にて、シンガポールへ届く由、只今松本来れりに見ゆ、晚餐、水戸葉十粒服用、○本日は時雄をも雇ひて学士会院へ出頭ノ積なれと、起立猶不能之故を以て止めたり、□□加藤君へ□□しと思ふ、○高木ノ電報ニシユ□とも寿次郎の相談極りたる時ナリ、△

七月十日『月』朝は曇、午後は晴なるへし、○朝灌腸、其後楼を下り湯殿に行き、洗顔、灌水、了復座、麵包一切レ、牛乳壺合、了て二階に昇る、此時きよ子髪を結ふ、本日より十日目にて水遣湿〔遺水カ〕を通ス、其後アポプレキシール九十粒を服用ス、○本日より蚊帳を弦る、昨夜ノ蚊焼に困却したればなり、○本日九時より新開町壮士演劇〔富カ〕を觀に行く、夜六時帰宅、周、舛、きよ、車夫、四人なり、

七月十一日『火』朝曇なれと午後は熱なるへし、○朝起、湯殿にて洗顔、灌水、復座、麵包一切レ、牛乳壺合、○其後勝氏へ病氣見舞に行く、此新聞紙ノ詭談ナリ、尤其官邸中数日前不幸の人ありし由なり、○舛子、高木へ行く、瀬脇寿次郎君、高田商会へ貰れたる由ナリ、商会は當時有名ノ商家にて拾万円金を有し名声〔赫カ〕□□たり、依而一も二も無く許諾ノ由なり、依而舛子は其方へ礼物を買ひに越後屋へ行く、○礼物はきよ子の相談にて白露〔絶カ〕と極まり、越後屋へ行く事を止めたり、○紳六郎より去ル三日上海着の書状到着せりといふ、○紳六郎へ書状を認置く、きよ子に渡し置く、○本日午後寿次郎、余等の来京ハ知らずなり、○本日勝の留守に寺田福寿より著書一部到来、帰賑の上礼す、○晩間瀬脇寿雄君来り、寿次郎君の高田商会へ貰れたるを披露し、次に舛子診察を受く、尻尾骨庭〔尾骨カ〕に発診〔疹カ〕之印を装へし、浮腫〔腫カ〕に非ず、此を□□□すへしと命し、□□□□□に同し、猶久服すへきを命す、○其前晩間杉山ノ叔母君と□□お花と小児を連れ来り、暫く談して去る、○其前山内善三郎より盆ノ見舞とし鯉節を差越ス、

七月十二日『水』曇天なれと朝日出つ、朝六時起、灌腸に赴ち、其後湯殿に行き洗顔、灌水、其涼を□□して下の部に座を占む、其後例ノ牛乳、麵包一ト切レ、其後表便所へ行く、其後二階にて衣替ス、其後表二階より降る、舛子従ふ、此時きよ子玄関まで見送る、其後人力車にて停車場に至り、山本を待つこと久し、暫くありて瀛車に乗る、大磯着は十時二十分ナリ、○其後人力車にて踏切を越へ帰宅、○其後十二時午餐に就く、嘉肴□□きに非るも鱧身を厭て食はず、白飯三椀を茄子ノ辛し漬と胡椒豚にて食了ス、○其後勃平と談し□□る、壮氏演劇の談を為し、本日来状、紳六郎上海着ノ報、小石川丸山町吉村泰得君、鹿兒嶋相沢お竹殿等ナリ、此方より差出ハ勃平、山本に命して□□□□へ催促状ナリ、○其後入浴行水、其後□□□為吉来てブラン子を試む、

七月十三日『木』晴、北風、後東風に変す、○朝湯殿にて洗顔、灌水、復座、麵包一切レ、辛し漬茄子、牛乳壺合、別ニ豚膏胡椒入アリ、了てアポプレキシール九十粒、○植木屋二人来る、○江ノ島烏帽子岩見ゆ、○東京第一瀛車にて中嶋啓蔵来訪ス、

東京にて瀬脇の話もあり□にて其方へ示し遣はず、○風月堂煎餅ノ土産あり、是を置き直に帰ル、○勃平は九時頃起床、例咽扁豆腺炎ニ而、一旦起床之後牛乳乳二合を傾け、再三量に入りて保養す、○植木屋主人、^{〔満天星〕}どう断三株を移植し、人夫三人率ゐり来り、午前に而了る、○風は午前より東西風に変ず、○時事新報も午前に来る、○其前午前湿電一回、両腕頭項脊背腹脚、裏、菊も同じ、其後裏便所行く、○午餐は鯛ノ潮煮汁と豚糊椒漬、□茄子等なり、了てアポプレキ^{〔シ〕}ー九十粒^{〔錠〕}十粒、○四時入浴行水、了て復座、○晚餐は黄瓜揉、剔鬚、取爪、其後晚餐に鯛、晚餐は黄瓜揉、鯛ノ差身、豚ノ膏等ナリ、此時安ノ事アリ、為吉□□□謂ふへし、植木職人三人は晩刻まで出精て帰る、其後四足亭に到り花□□□□□□、おせんさん来訪□□□□□、其後お寛^{お寛}と供^とに来訪、其後お勢^{せい}、浴湯に帰る、其後長歌師匠とお勢さんと来り、長歌師匠、越後獅子を語る、蚊帳中に在、蚊帳中ニテ、此を聴く、其後高木寛子嬢高砂を歌ふ、頗ル好し、其後九時頃ニ皆去ル、

『旧六月大□□日□九時四十七分』

七月十四日『金』好晴、朝灌腸、通利少し、其後湯殿にて洗顔、灌水、其後就座、麵一切レ、辛し漬茄子、豚膏胡椒漬^{〔漬〕}等なり、其後暫して湿電一回、舛□此を司る、○本日菊病氣、馬嶋氏へ診察を乞ふ、レウマチスナリと、服薬にて宜きよし、○本日貞、東京第一瀛車にて帰る断りをいふ、○時事新報朝来ル、○本日植木職人三人来ル、○植木屋へは出入之用を以て一円遣はす、○出□も種巻も同一円ナリ、○勃平、本日同様ナリ、昨日□針を施し少く緩和したれと猶全快ならず、

○午餐は牛肉ノ罐^{〔詰〕}、朝鮮□□の胡椒浸し、白飯三杯なり、午餐後アポプレキ^{〔シ〕}ー九十粒を服用ス、○午後三時牡丹餅四ツを食す、裏便所に行く、○時に高木お寛さんと兄賢俊と共帰路に就く、師匠も亦帰る、お勢さん見送りて別荘に帰る、

七月十五日『土』晴、朝起、湯殿にて洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、^{〔牛〕}乳壺合、辛し漬茄子少し、了て小水ニ行く、裏便所、○七時過再度小水壺度、同便所、○此時東京^一番^二瀛車到着、○舛子、安を連れて、杉本令夫人ノ死去を弔ひに行く、本日仮葬を行ふ、本葬は他日なりと、香典一円を齎らす、○此時、安手を起す、○令夫人は□傷の由、仮葬ニは行かず、本日タビに附スの由なり、□□□□□□能はずといふ、○勃平、九時後起床、□□□□□□□□起もせし、昨夜来扁豆腺ナリ、腫起し大ニ恥む□由ナリ、○植木職人本日早朝より三人来り、苗丁を莩り手を入ル、○午餐鰻鯉一重、肴煮は紅魚なり、竹葉に□□□□一日中下利に勝れり、○勃平□食はず、只朝ノ牛乳二合なり、菊は既に解熱と見、平常に復ス、○午餐後アポプレキ^{〔シ〕}ー九十粒を服用ス、通利を恐れてなり、○午餐前宮内^{〔稱〕}紵五郎来ル、午餐を供ス、暫く談して去ル、此度は林洞海、山村某^{〔甚兵衛〕}と二人揃代理して杉本氏ノ葬に臨する由と其談に云ふ、此間柏崎遊ひ、新潟より左渡之金山に引帰、会津を歴て^{〔警梯〕}万代山ノ禁

「西周日記」

に出ゝて帰ると、○晚餐は鯛ノ潮煮、李ノ煮物、ところ天等なり、○勃平、猶食事不進、疲労甚し、了て就寝、尤アポプレキシー^(シ)九十粒を服用ス、植木職人二人、夕方まで出精る、

七月十六日『日』晴、南大風、朝起、先つ灌腸を行ふ、通利少くあり、其湯殿に洗顔灌水、復座、麵包一切、辛子漬茄子一皿、○勃平、朝八時起床、後就寝、昨夜痰咳宜しからず、終夜用水、○菊は昨日に本快ニ而、夜分より□□扶助したり、○きよ子より手昏、舛子の処届く、○植木屋職、草採二人来る、○後裏便所にて小水一度、○其後湿電一回、菊此を司、部位箇所同し、○百足屋より大鱈五本、為盆礼差越ス、○午餐は李ノ煮物、ジャ芋と茄子ノ煮物ナリ、○本日大和竹、礼なりと海水を勧めに来る、○五時前入浴行水、舛子は折節腸病にて入浴せず、菊此扶く、○本日午前馬駕来りて、舛子並ニ勃平を診す、舛子は薬一二服ノ後健胃^(劑)濟にて治す可しと謂ふ、勃平は煙草を断ち、散薬を服、水薬を服し、鄭重に療用すへきを命して去る、○四時後入浴行水、菊此を扶く、○晚餐は牛肉ノ罐^(詰)鎮、玉子ノ煮物、白飯二杯、跡にて辛し漬茄子二皿、其後就寝、○跡ニテアポプレキシー九十粒を服用ス、

七月十七日『月』朝起、湯に行き洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳一合、茄子辛し漬一皿、其後に裏便所へ行く、小水不通、却而裏便所へ行く、小水不通、○湿電一回、菊此を司る、□□□□□如し、○植木屋職人二人来る、○十時二十分きよ子来る、○十一時五十八分馬駕来診、舛子、勃平、兩人を診察す、舛子は

七月十八日『火』早起、湯殿にて洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、辛子漬茄子一盃、其後きよ子帰る、二度四足亭に送す、○国府津第二瀛車なり、其後急就座、行灌腸、大便器不便にして不通、後一睡して再び此を行ふ、此度灌腸器を贖へ婦人ノ灌腸器を用ひ、此后再就座、午餐の頃に小水急ニ襲ナリ、遂に至らば小便自利ナリ、後午睡一度、○其後海水に行く、海水より帰る、首重きを覚ふ、尤人力車ナリ、若松屋の前に至り、招仙閣前より通行帰荘、○其後瀬脇来り、六時頃なり、夜十時瀛車ニ而出発、其間多少ノ談あり、舛子、此夜平穩安眠ス、

七月十九日『水』朝起、湯殿にて洗顔、灌水、其後復座、就朝食、勃平も同し、舛子も本日平穩、勃平、朝より海水に赴く、蓋其扁豆腺炎に利ありを覚へたるなり、○其前周表便所へ小水に行く、○其後勃平八時半帰宅、引続て宮内衞五郎来ル、枝豆持参あり、赤松則良君来ル、皆杉本ノ葬儀の為に来るなり、其前お勢さん来、松葉牡丹持参、衞五郎君、則良君、皆去る、午餐は茄子の□□□□□煮物、□□□煮物等なり、其後表便^(所)へ小水一度、杉本葬式帰りに立来る人皆僅□たり、此間瀛車上下二度なり、晚餐はノ鰻鯉飯□□□□□□□□□□、其後アポプレキシー九十粒、其後就寝、

『夜八時半地震す、暫時了るナリ、』

七月二十日『木』曇、朝小雨降る、朝湯殿に洗顔、灌水、其後就座、麵包一箇、牛乳

一合、辛漬茄子一皿等、了て裏便所へ行、小水一度、○其後勃平、海水に行く、九時頃帰宅、○草採人足三人来る、灯台ノ椿を持ち来ル、○また石混燼成ノ直し等、左官来り一時間位にて去ル、○明日国府^(引)一番瀛車ニテ東京行と決ス、下婢は菊ナリ、○勃平も豊住行と決ス、○午餐は桃と~~シヤタラ芋~~^(餅)と~~加子ノ胡摩~~^{麻浸}ナリ、午後亦就睡、○午後二時過豊住秀来る、学習院にて高等中学に入りたる由なり、明日は江ノ島へ行くといふ、朋友間ノ期約と見ゆ、○本日午後三時より雷鳴、雨降り出ス、○四時後入浴行水、○其後勃平行水、○晚餐は鰻鯉に□□□色〜、豚の□□ノ煮物、茄子ノ煮物、

七月二十一日『金』本日朝第二瀛車にて東京行、勃平も共にす、下女菊供ナリ、

七月二十二日『土』本日舛子、亀井公周の代理に行く、亀井邸に行く、帰路三崎座へ立寄る積ナリ、山本三省といふ者ノ^(控カ)□死去之由報知あり、□□□□□、無沙汰に差置く積ナリ、昨日勝ノ開国起原、并灌腸器を買ふ、松平八十万石静岡ノ公証人千坂彦四郎君より~~氏~~書状なり、

七月二十三日『日』晴、朝起、灌腸、其下楼、湯殿に行く、洗顔、灌水、其後次ノ間にて朝食、麵包一切、牛乳一合、了て小水に行く、不通なり、其後昇楼、小倉令夫人一氏来ル、其後きよ子、小松宮へ暑中伺に行く、御息所暑中にて逢はず、其後田中氏某を見舞ひ帰家、○亀井茲迪殿、暑中見舞にて来訪、明後日答礼の積ナリ、○入浴後、舛子、瀬脇へ行く、暑中、且^(診)疹察を受る意なり、○本日四時過入浴行水、

七月二十四日『月』晴、朝起、湯殿に行き、洗顔、灌水、其後次ノ間にて、麵包一切、●●乳牛一合、辛し漬一皿なり、楼に昇り机に向ふ、本日は歌舞伎座見物と極む、○表便所行く、小水不通ナリ、楼上ノ座に就き便所至る、亦不通なり、漸く便器漏る、○此時きよ子、皆を鎮ふ、○其後菊、小便椅を買来る、大磯用なり、○高田寿次郎君此間ノ礼に来る、○後^(夜)歌舞座へ至る、夜六時半帰宅、団^(左カ)□菊之の芝居なり、□□□皆□□至る

七月二十五日『火』晴、○本日子よ子、早朝榎本武揚君令夫人危篤ノ報知に聴ス、○朝灌腸、其後にて湯殿へ行き洗顔、灌水、其後次ノ間にて座ニ就き、麵包二切、牛乳一合、了て表便所に行く、小水不通ナリ、乃ち楼に昇る、睡に就く、きよ子、舛子も、亀井邸より十一時前に帰宅、○勃平より停職給を取りに差越ス、○午後一時前^(高)田純一君来訪、今度暑中休暇に付、且多田寿次郎君一件ニ付、出京ノ由、暫く話して去ル、○午後佐々木信綱来訪、干菓子ノ贈り、舛子ノ処へ有り、○亀井茲迪君より暑中見舞と此方よりの祝儀に答書為に鰻鯉ノ賜あり、○晚餐此を用ゆ、○本日より時雄の暑中休暇を得たり、○来八月一杯なるへし、

『本日朝冷氣 □ふナリ、』

七月廿六日『水』本日朝六時発ノ一番瀛車ニ而大磯に帰ル、八時五分過帰宅、着瀛車ノ時、暴風雨習風ニテ、甚しく困却せり、其後少く晴に向ひたれとと、猶曇天を見

「西周日記」

かれす、○着後七月十三日香港発之英船カルマルヤンシヤー号発ノ端書届く、紳六郎より書来り、シンガホール着、出発ノ由ナリ、○午餐は覚へす、○晚餐は鱈の焼物、食はず□、○

七月廿七日『木』晴、北風寒し、朝起、湯殿にて洗顔、灌水、其後就座、麵包一枚、牛乳壺合、辛漬^(新)茄子一皿、了て裏便所へ行、小水一度なり、了湿電一回、其後小水一回、○瀬脇寿雄君より明廿八日日本橋区花屋敷常盤亭へ夫婦を招待ノ由なり、此を断りに帰たり、また勃平へ豊住秀堅より藤村忠誠ノ手昏を添へ申来り、伊ノ勢地へ行て托スへしといふ事なり、○十時勃平、東京に向け出立、蓋し先つ豊住へ行く也、□報へし、不常に一同に断り置くならんと思ふ、○午後五時潮水浴、了て晚餐はマテ貝ノむき身、烏賊ノ煮物等ナリ、了て表便所に行き小水一度、了入蚊帳就寝、

『本日北風涼なるを、午後より暑気ニ復ス』

七月廿八日『金』朝ハ曇る、九時頃薄裂を生し、暑気平常ノ如し、朝食、麵包一切、辛し漬茄子等ナリ、了て表便所へ行く、小水沢山、通利あり、其後菊湿電一回、其裏便所へ行く、小水一度、其後因循ノ間、時雄突然来ル、朝時雄ノ枕ノ徴あり、在京書状沢山、きよ子より書状来る、岐阜提灯も来る、○朝寿次郎より書来、舛子の処へ来る、速断ニテ三嶋氏へ行く、爾後に認めて寿次郎と為す、昨日相沢朧君三十日□□□へ来るといふ也、朝^(起カ)□灌水、通利あり、其後湯殿に行き、洗顔、灌水、其後復座、平常ノ如し、○午餐ハ芋ノ瑞末ノ豆数に桃ノ煮物等ナリ、○此より海水浴に赴かんとす、夫より海水に赴く、伊泉竹在り、余帰るまで半時間、即ち帰路に就く、時雄跡に遣り焼沙浴を為す故、遣して帰宅、□路余は車^(足)を雇して百舎屋新開路より帰る、鉄道踏切ニより車行かす、歩ニして渉る、車は兩人にて担して渡る、帰宅後代を払ふ、五銭ナリ、土用うしと謂ふ可し、時雄、此時後之事、一時間後□入浴行水して、上浴ノ後此を訪はず、後再度海水に行くと、其□を遣はする恐ふへし、

『Calmryenshire^{*}号』 ※〔正式船名：Carmarthenshire、lは誤記カ、yはthの古い書き方に依るカ〕

『今夜小磯の大口□火災あり、勃平、時雄、并皆行く』

七月二十九日『土』朝曇、午後晴、○朝起、湯殿に行き、洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、茄子三切、其後湿電一回、時雄司此、其後二ノ間ニテ一睡、○本日勃平帰宅、二番瀛車にて、○午前百足屋来訪、地代ノ事を談し、庭^(内)弁に出て廻りて帰る、併出行ノ際に□□□□事を決し、○本日午後、午餐後時雄海水に行く、○午餐は桃ノ煮物、黄爪揉、烏賊ノ煮物等ナリ、白飯一杯、午餐後灌水一度、其後湯殿に行き、洗顔、灌水、此時天象薄裂にして晴□を現はし、晩間ノ月照ふへし、

七月三十日『日』薄裂漸次に晴となる、此節ノ徴天変なり、○朝起、湯殿に至り、洗顔、其後灌水、其後復座、麵包一枚、牛^乳肉壺合、辛し漬茄子一皿、其後裏便所へ行

く、小水壺度、其後湿電一回、時雄此を司る、此時勃平起床、此時大工人心良し□□□場を起き庭に来ル、草採人足四人来る、○時雄、海水に行く、午前帰ル、○午餐は^{〔冬茹〕}トングノ煮物、桃ノ煮物、垣豆ノ煮物、白飯^{〔榎〕}三^{〔日〕}等ナリ、

七月三十一日『月』薄裂昨日ノ如し、朝灌腸、其後湯殿へ行き、洗顔、灌水、其後復座、麵包一枚、牛乳一合、茄子ノ辛し漬一皿、其後設樂九臯来訪、一二談ノ後ナリ、其後湿電一回、時雄、勃平司此、○其後表便所へ行く、菊扶此、其後時雄、海水に行く、本日二個月分ノ計算あり、舂子、勃平、主管此、

八月一日『火』朝曇、薄裂、午後大暑なるへし、○朝起、湯に行き、洗顔、灌水、其後復座、麵包一枚、辛し漬茄子一皿、了て直に湿電一回、時雄、勃平、主管ス之を、其後小水一度、頗ル溢したり、○時雄、其後断て海水に行く、○勃平へ^{〔高田〕}瀬脇寿二郎君より新橋亀清楼へ招あり、断はる由なり、○時雄に^{〔田〕}築正造より暑中無音ノ端書来ル、○午餐は茄子ノ鵺焼、此に□□ノ煮物、山桃ノ煮物等ナリ、午後其後葛粉一杯、○本日相沢朧君来訪、寿次郎より差越し鼈二を持参、折柄内にも鼈ノ罐鎖を開く故に此を不用、次日の用に供せんと貯へ置く、本日晚間□焼を始む、行灯を灯し□□行灯を掲ぐ、相沢氏へ馳走ノ為なり、○本日寿丸より書状を差越ス、津和野も早魃ニテ、美濃郡抱有事あり、鹿足郡は無事なる由、○夜中夢歟、奇事屢あり、後に明かならん、

八月二日『水』朝晴、風涼し、朝灌腸、通利少し、其後湯殿へ行き、洗顔、灌水、復座、麵包一枚、茄子ノ辛し漬一皿、了て裏便所へ小水に行く、○勃平、時雄、海水に行く、早朝餐後なり、其後湿電一回、勃平、時雄、主幹此を、○其序に寿丸手翰を示ス、○次に鼈血を呑む、○次に海水に時雄行く、此夜曉方便所に行き、後後放屁二回三回と放屁にて少く立便となり、乃ち内大便所に行き一回下利、其後^{〔日〕}拭入床、此時勃平出来り、外戸を開き是を模様スふ報ス、

『本日朝七時前、一大地震あり、忽にて止む、』

八月三日『木』朝起、灌腸、通利少し、昨夜の続きなれはなり、其後湯殿に行き、洗顔、灌水、復座、勃平、時雄、相沢、舂子、周、一同、就朝餐□□別名随貴卷等なり、其後周裏便所へ行き小水一度、再行き小水一度、勃平其頻となるを笑ふ、○十時より相沢、勃平、時雄、海水に行く、一時間位ニテ帰宅、○また小水に行く、所謂頻となり、○午餐は冬瓜ノノツヘ汁、此に□□□□の多□の吸物等ナリ、□□にして味佳ナリ、○午餐後、勃平、時雄、海水に行く、時雄は先□□行く、○相沢君は帰宅決す、○相沢は一時四十八分ノ瀛車にて品川まで帰り、夫より板橋へ帰る事と決して発途したり、○本日之天気は曇天なりしが、其後東西方^{〔日〕}を^{〔裂〕}生し、午後より薄裂を生し、遂に薄裂を生し、薄裂となれり、○五時過入浴、其前午睡一時、小水壺度、○次に勃平、次に時雄、晚餐ハ曹達の刺身、辛し漬ノ茄子等ナリ、

「西周日記」

○正午加藤令夫人来訪す、加藤には来るは跡に知る、

八月四日『金』朝湯殿にて洗顔、灌水、其後就座、本日午後東京行を□す、○午後壹時四十九〔ママ〕分發ノ瀛車にて四時幾分に東京着、△

八月五日『土』晴、朝起、湯殿へ行き洗顔、灌水、其後きよ子、晩夜より仕度を繕ひ、早朝より榎本氏葬式に行く、舛子も同時遅れて榎本武揚君方へ見舞に行く、其後佐野君来ル、恩給ノ事に及ふ、曾て紳六郎より托スル事あるなり、云ふ明治十一年十二月末に拝職之事あり、故に途切れたりと□□□□□□□調弁にて古より事を述へたり、恩給局にても搦送りも得為さず、時雄に命し此を送らしめたり、答送品ノ郵便ノ届く事は届きたりし、何分昨日より休暇を賜わりて其故無沙汰にてありたりと、○楼上に小水一度、午餐はこち、白飯一枚、時に山口県厚狭郡宇部〔村藤カ〕□田恭輔より書状差越ス、暑中見舞ならん、能く廻はる男なり、○舛子も三時頃より亀井家の賜カステイラを以て、豊住暑中見舞に行きたり、

八月六日『日』晴、熱、本日朝芝公園内若香園に到り、薺花を見、之を買ふ、また芝山内保坂金次郎に至り、□牛花を買ふ、了て停車場場にに至り、目黒行の瀛車券を買、目黒に至る、岡主守節君又婦ノ富子、其細君殿へ十分、三崙君を省き、其後夕方に帰宅、目黒の橋端屋へ至り鯉黒の料理あり、了て目黒出、四時ノ瀛車ニ而新橋停車場に就く、其後瀬脇姉来り、高田寿次郎君の写真を贈る、其時仙台市弥重剛矣より久振葉書も、勃平受ケ、何れ返書を遣はず積ナリ、

八月七日『月』□□□□□□□□□□、早起、湯殿に行き、餐了て楼上に昇り座に着く、此時一大異変を覚ゆ、火報鐘を打ち人を呼ぶ、夜を揚げ満しにして利既に始まる、此時嶋田令夫人来ル、舛子と話す、彼此なり、○電気ノ機械整頓、次テ本日午後ノ瀛車ニ而も帰磯と決す、○紳六郎よりシンガポール着のきよ子宛書状届く、○午餐は赤鯿の味噌汁、味佳し、東京ノ唐茄子等ナリ、○了て再上楼、臥睡に就く、○午後ノ発車ハ四時四十五分と決る、

八月八日『火』晴、西東北風、後十時より南風に変す、○早起、湯殿にて洗顔、灌水、復座、麵包一枚、牛乳壺合、十時朝兒四鉢を送り届く、此時時事新報も届く、○後白百日紅と白花朱花も届く、此時高木番屋を建つ、提上に、○午餐鯉魚ノ煮肴、白飯二杯、辛し漬茄子等ナリ、午餐後一時半頃過午睡、清涼にして快眠七なり、時に百足屋来り、舛子井戸ノ事を談す、其後入浴行水、晩餐は□ノ味噌汁、六時に瀬脇姉来る、只□□□□□□□、夫より直に就寝に、

八月九日『水』晴、○本日第七時ノ着瀛車にて、豊住好子、箱根玉の湯へ遊ぶとて瀛車大磯を通る、勃平恩報之の爲、此を玉の湯まで送らんといふ、然るに好子再三断るを以て其意に随ふ、其□及二侍婢、此を□□□たる以てなり、其後寫田順一君夫婦午後一時四十五分の瀛車にて出立、舛子、勃平、此を送り、併せ同時に佐々木信綱君を送る、余、此を四足亭に送る、時に国府津の瀛車来れとも、平塚の瀛車来ら

さるを以て、半途にて帰り座に就く、暫くにて此二事を以て本日の事なる□□□、
午睡に就く、○

八月十日『木』晴、早起、湯殿にて洗顔、灌水、其前勃平と共に荷花ノ開くを観る為
池返に行く、荷花は生したりと雖へとも、本年初て植へたるを以て俄に蒼を発生せ
しむるに至らず、後常例に随ひ就座、就朝食、麵包壹枚、牛乳壹合、辛し漬茄子等
ナリ、其後湿電一回、勃平主管す、此両腕頭面腿脊足脚等、其後表便所へ行く、小
水一度、此時高木之下女来ル、お清さんノ世話なり、此時時事新報来ル、○本日若
香園ノ薺花五鉢なる分能く開く、保坂ノ百日紅白ノ分、此らノ分、共に開く、牛唇
白花亦開く、大枸杞ノ実漸く熟に向フ、午餐は鰻鯉ナリ、辛し漬ノ茄子尤も辛し、
○本日、来ル十五日東京学士会院へ出席ノ件を断り状を差出したり、亦八月本月は
休焉ナリト答ふ、此にて安心す、○またまた豊住好より誘の端書来ル、夕方になり
瀬脇寿雄君来ル、七時十九分瀛車ニ而帰京すといふ、

八月十一日『金』晴、本日箱根塔之沢豊住好を訪問して早朝より発、早山を越へて停
車場に至る、此時百足屋に逢ふ、随ふ者、瀬脇姉、石川お清さん、舛子、勃平ナリ、
七時四十一分東上ノ気車にて上ル、国府津までにて下車し、夫より車に運（輸）、馬車
にて湯本に至り、人力車に換ふ、此間価五銭にて塔ノ沢まで至り、玉の湯に至り、
楼に登る、□□□を述る後湯に浴す、湯は温にて体に適ス、午餐は平常の魚類にて
最□味無し、此時秀人と学陽院ノ連中と□□ノ湯にあり、始終左右に非らず、鷺は
急しきなり、午餐晚餐を食す、平常ノ料理にして記する程ノ物無し、氷水を喫す、
箱根山中清涼氷水を喫するの□もなし、帰路秀麗ノ美人あり、其ノ紳士（相）シャニコ面
ノ変する所なるへし、また手相之事あり、第四五（第）□顆ノ小金ありといふ、大磯に帰
る、此に松林館に一宿すといふて出去ル、此を本日の記行とす、

八月十二日『土』晴、朝起、湯殿に行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、茄子漬一
皿、○勃平、朝海水に行く、○朝瀬脇後室、富子と共に昨日の礼に来ル、○其後上
総屋ノ夫人、女兒を連れて暑気見舞に来る、其後高木より稲荷鮎□を贈る、○午餐
はサルジンキ、桃の暑物等なり、○午餐前湿電一回、菊司之、小水二回、忝度表便
所、また一度は裏便所、○午餐後一睡、其後表便所へ行き、其後四時より入浴行水、
○勃平、此時海水に行く、潮流好しと見ゆ、きよ子来らず、勃平ノ□□らず、○八
月九日出ノ寿丸より書状届く、別事無し、時雄ノ礼のミ、○昨日加藤君より、東京
土産として□□ノ梅□個を贈らる、勃平、其後入浴行水、○

八月十三日『日』晴、北風寒し、朝湯殿に行き洗顔、灌水、其前灌腸、通利あり、其
後就座、麵包一枚、辛し漬茄子一皿、其後表便所へ行き小水一度、○本日一番瀛車
にてきよ子来らず、二番にて来らず、○石川お清さん、国府津一番にて東京へ買
物に行く、○舛子より豊住へ豌豆、護摩菜等を贈る、○□□ノ□□□朝□くより来
る、○北方朝曇る、一時小雨を齎したれと、後再雲破れ快晴となれり、○勃平、池

「西周日記」

中の山かゝしを突く、此線路に抛す、○^{金太}金太朝湯を^{遣ふ}遣ふ、○其後一睡、起て午餐に就く、午餐は牛肉、茄子辛し漬、サルジンキ等なり、午後は舂子、勃平共に高木にて診察を□ひ、原田氏兄弟を呼ぶに会□□□と辞して行かず、涼処に臥して此ヲ待つ、晚餐は洋食を誂らへたり、勃平は入浴前また海水に行くといふ、○東京三十間堀内、昨十二日夜半二時向河岸火事起り、月冷なり、何歟にて□□したりと、本日本市内を賑したり□□□□取にて此を聞くと、○其後青直樹、下門^(カ)倅佑兩人、兼而通知書状等ニテ先触れ之處、昨日初而来邸あり、晚餐を供す、下町に下宿するとして辞し去ル、

『本日第二日曜なれと、加藤より書に随ひ不参ナリ、／本日本多という人向ふ□□邸に引移りたり、』

八月十四日『月』朝起、灌腸、其後湯殿に行き洗顔、灌水、其後麵包一切、辛し漬一皿、牛乳壺合、其後□□に扶けられ若松屋へ至り、舂子を待つ、十時三十分□□通平国府津より第三瀛車に乗りて東京に至る、正午は川崎にて逢ふ、直く東京なり、既に正午過ナリ、火災を訪ふ、向河岸三十軒許ノ火災之由、時に牛込ノ伊藤氏より賊ノ報あり、別に異事無し□報する由、此兩報、きよ子の心配を増せられたりと、着後午餐赤い味の味噌汁等なり、午後氷汁粉ノ馳走あり、○本日□納、東京学士会院雑誌第十四編一冊、松平康平氏^(民カ)□□□□、并^(集古十種カ)□□□□□ナリ、

八月十五日『火』晴、朝起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、於茶間麵包一切、牛乳壺合、了て楼に昇り、此時きよ子所得税書^{云こあり}七^七出^七、舂子は本日板橋相沢に見舞ふ事に極めたり、経師屋来り、壺軸絵切を示す、此時舂子停車場に至る、其後経師屋来り軸物の価直を極る、奉^{山本}母^ル之を記す、中間伊東富子来々、大磯へ来れと言ふ、○きよ子、午餐は新しき鰹魚なりと報ス、○降て午餐ス、あらの玉子漬に鰹魚ノ刺身なり、舂子、車中清涼凌き易きをいひ、○富子は直に帰れり、賊を恐れてと戯れたり、下楼時計を巻く、居間の時計は十二時三十分前ナリ、

八月十六日『水』東京少雨、大磯晴、朝在東京、朝起、湯殿至り洗顔、灌水、其茶ノ間麵包少々、了て帰磯ノ仕度に掛り、朝二番瀛車と定む、直に人力車二乗り停車場に至る、瀛車直に発ス、きよ子も共に興なり、十時後大磯に着す、帰着前松岡隣君来り宿す、□塚ノ北宮山ノ鮎を持参なり、故に午餐は宮山鮎なり、殊に美なるを覚、午後三時三十分帰る、瀬脇老母より大^(磯カ)幾^(磯カ)鰻頭之贈あり、蓋し鮎魚裾分ありしならん、大磯に着之時、永^(長)与専斎君及長松観君に逢ひたり、

八月十七日『木』朝雨、其後曇天、朝雷鳴あり、朝起、湯殿に行き洗顔、灌水、其后就座、麵包一切、牛乳壺合、其後勃平湿電を調す、きよ子之を、○十時瀛車にて豊住秀^人来訪、午餐牡丹餅を供ス、其後高木に行く、一□人あるを以てなり、本日本大雨沛然たり、日夕将に曛に向はんとす、余は午餐後就午睡、其後□□、晩間四時後入浴行水、其後晚餐に就く、○本日朝、澳地利皇子、大磯を通して東京に着ス、勃

平早起、此を停車場前に観に出、唯紅紫色の幕を掛るを見る、
八月十八日『金』朝灌腸、通利平常なり、其後湯殿に行き洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、茄子平常半皿、○高木お富さん、おみつさんと共、第一瀛車にて東京に向ふ、○昨夜南風ニテ吹暴るゝこと終夜、本日も南風習ひノ気味なり、海上波高し、颯気あり、時々吹掛り来る間、日照ること無からし、熱し、其後湿電一回、菊此を司る、勃平、きよ子、時々助之、其後小水通利なり、○本日惣賄の下女来る、名は未た分らず、○其後舂子云ふ、名ハ福といふ、日本橋区元大工町十二番地、兄ノ名は白井某なりと、○○午餐は牛ノ大和煮、松茸ノ煮附、葉庖丁、飯三杯等なり、○其後便所に行きたる時、加藤君より玉子焼、蚕豆、砂糖之贈あり、
八月十九日『土』昨夜大風雨、南方池水一面に溢れたり、朝起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、此時豊住秀人、函嶺に遊はんとす、何歟用事も無き歟と申来ル、用事無し、舂答ふ、其後お寛并ニ寫田の姉子遊に来る、其後湿電一回、きよ子此を扶く、其後裏所へ行く、小水不通なり、其後表便所へ行く、きよ子此を扶く、小便能く通り、○午餐は牛肉、葱、人參の煮物、茄子ノ煮物等なり、白飯二杯等ナリ、其後百足屋水門直しに来る、○其後高木母来訪、早岐団扇を贈らる、瀬脇姉さん来訪、其後三寫寡夫人暫く談して去ル、○此間きよ子并ニ勃平、海水に至る、○其後湯湧くを報す、入浴行水、其前北海道林檎の馳走あり、蓋瀬脇姉さんに□□□□ナリ、○昨夜ノ大風ニ前面堤上ノ高木ノ番屋吹倒されたり、
八月二十日『日』朝日出スルも再曇る、朝灌腸暁起掛、其後湯殿に行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、茄子少許、牛乳一合、其後勃平同時に起床、同就食、其後勃平、急遽瀛車に乗り東京発す、其後裏便所へ行く、きよ子此を扶く、其後きよ子、若松屋へ行き、明日小田原芝居之事をお寛さんと共にす、明日八時前と約し帰る、其後きよ子、松林館の浜へ地引を見に安を連れて行く、十一時前に帰る、○勃平立るに臨んで、きよ子、□□之事五貫目を命す、○其前余裏便所へ小水通利あり、○本日金太朝より病気なり、腰痛と見ゆ、勃平或は痛く其腰を締たる故ならんといふ、○三時三十分瀬脇姉上を見送る、四足亭に出る、高木お富さん、お寛さんと共に送る、時に舂子もきよ子も在りて、送人ハ瀬脇姉と山本おみつさんなり、○本日語り人来る、植木屋の祖母さん能く之を弁す、復巡查白井を□れて此を派出所にて逐ひ払ふ、本日夜中、沢ノ令夫人来る、□□土産あり、後に詳記すへし、
『本日午後一時鳴立庵に地震あり、』
八月廿一日『月』雨、本日早朝より小田原へ発行、紅皿欠皿并に天神記ノ芝居を観る、頗る佳なり、唯始終小便閉り困却す、返て国府津に至り茶店にて野□□に尿ス、始而血漿あり、其後始而快心を覚ふ、□□□□遠きを以て立寄らず、唯午餐ノ□を受け坐敷代を払ふのミ、本日三嶋氏より白漬ノ□□酢を贈らる、帰後菊此を報す、
八月廿二日『火』朝起、湯殿にて洗顔、灌水、其後就座、麵包一片、牛乳一合、○其

「西周日記」

後高木富子、罵田のおまつさんと共に一旦帰宅し、家の建前を見届け、直にまた来る由なり、お寛さんは残り居る由にて、朝より来り居れり、○舛子は朝三罵さんへ礼に行きたり、此白漬□酸之礼なり、○其東京より^{ニンニク}□葱着く、○佐々木信綱来訪、次に相沢英次郎来り、二人なり、一宿ス、晚餐後二人なり大磯沢を一見に出、て鳴立沢に至りて返へる、

八月廿三日『水』朝より晴暖、早朝灌腸、其後朝湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳一合余、其後裏便所ニテ小水一行、○其前信綱、英次郎、海水を觀_下に行く、直に返へる、其後信綱、国府津着瀛車にて東京へ下る、其後相沢英次郎_下来り瀛車に乗る、暇乞して去る、○植木屋主人共二三人来り、庭の趣を直ほす、○石川お勢さん、英次郎を見送りに行く、暁来諸土産を英次郎に贈る、○其後遽に思立て佐野ノ瀑布を觀に、周、舛、きよ、三人行く、□□□□□□□□□□国府津よりまた瀛車にて御天場^(殿)に至り僅かにて佐野停車場に至り、其より佐野瀑を觀に行く、遂に一宿す、其居所□□□なるを以て、別に居を取かへんと欲したれと後二階に招したれば□□し、遂に一宿したり、

八月廿四日『木』朝起、灌水場に至り霧仕掛ノ灌水を作し、終て楼上にて朝食をなし、_{殿□場を}帰を告げて佐野停車場に至り、其より御天場_をを過き、河北、小山等過き□□て^(国府カ)津に至り、遂に少侍にて大磯に着きたり、車中にて午餐を食せんと欲したれともサンドイツ等の備も無く、遂に帰宅後午餐に就たり、午餐は意佐記の酒煮等なり、金太□□□□□茄子ノ煮物等なり、○本日虹見ゆ、海上ニテ多く流れたれりときよ子いふ、きよ子、帰後海水に行きたり、

八月廿五日『金』朝起、灌腸に従事、通利は愈なり、其後湯殿_小に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳一合、茄子少こ、其後裏便所へ行き_小水一回、其後きよ子、明日ノ帰宅を端書に報し遣はす、其後湿電一回、其後裏便所へ行き小水通利あり、本日朝植木屋婆_こ亦来ル、□てより本日□□□留守を□□す、必ス来り工事に従事ス、○明日は国府津第二^(ママ)帰車第八時発にて東京へ帰宅すと、きよ子いふ、○明日は菊にてはまた困る故に安を供に遣るへしと、舛子いふ、○午餐は糸瓜ノ蒲焼、茄子ノ煮物等ニ而白飯二杯、其後舛子□□□□□□□□□□はれとも下婢未た白状せず、○きよ子ハ海水に行く、舛子を伴ひ行きけり、○其後二時過兩人、舛、きよ、海水より帰る、水二を喫す、了て小水に行く、不出なり、乃ち入浴行水を始む、○五時、周剃鬚^(ママ)、入浴行水了ル、きよ子も修髪了ル、舛子も続入浴了ル、此時小水ニ行く、快通なり、○晚餐は□□□すし少し、其小水不通なり、明日は八時前発、

八月廿六日『土』本日七時四十二分ノ瀛車ニテ東京へ行く、十時後着、其後佐野黎君来り、履曆之事に及ふ、少く改正あり、午後勃平来り、明日写真ノ約あり、

八月廿七日『日』□湯殿に至り洗顔、灌水、其後朝餐に就く、○きよ子、此朝松本和君を訪ふ、紳六郎着日程未た分明ならず、其後丸木武陽方^(利隆ノ談カ)へ写真を取りに行く、勃

平も同じ、一同午後出来之由なり、勃平は当分大磯へは帰らずといふ、明日は浅草座観物と決す、

八月廿八日『月』本日朝に雨降り出す、雨降るに由り浅草座観物を□めん欲し、山本□勤めて止ます、即ち是を決意して此に従ふ、千代萩なり、□累身売ノ場にて、了て帰宅、安従ふ、舂子、きよ子、安にて、夕四時後帰宅、

八月廿九日『火』本日午後帰磯と決す、朝湯殿至り洗顔、灌水、終て坐に就き、麵包一切、牛乳一合、茄子の辛し漬二皿を喫し、後昇□□ヘナリ、本日帰磯之故を以て、逆例ニ依り灌腸をなしたり、松本廉平并ニ藤田恭助写真入挨拶状をきよ子に托し置く、□□□□□を時雄より受取る、出立前相沢朧君来訪、英次郎は返遣ひノ外□□を通らずして伊勢路へ遊たる由ナリ、早々停車場に至り、故に途中ニ而横浜を過ぎ午餐す、午餐後一時大磯別邸へ着、余は次号より詳かにす、

八月三十日『水』晴、北風、多分習也、朝灌腸、其湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包壹枚、牛乳壹合、茄子ノ辛漬一皿、其後時雄湿電一回、両腕面項脇左右脊腰腿脚脊等なり、其後勃平、豊住お歳、お潮 を連れ帰る、○其後時雄海水より帰る、○本日永見裕氏より書状来ル、北海道胆振国有珠郡西紋(別)(製)鼈制糖会社と番外地とあり、○午餐は豊住より贈り越したる牛肉と葱と其茄子ノ煮物、糸瓜ノ味噌焼等にて白飯二杯半ナリ、了てお歳、お潮、皆来たり而、遂に勃平、時雄、安、お寛さん、舂子、海水に行く、○午時より南風に変す、海上白帆多くなり、○本日夜に至り表便所に行き小水ノ後就寝、後水瓜を喰たる事始り□寝所より出てて水瓜を喰ふ、

八月三十一日『木』本日二百十日なれと晴、風無し、昨日ノ続にて習ひの微風あり、朝起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳一合、其後時雄湿電に掛る、湿電一回個所同じ、其後勃平、時雄等、お年、お潮等、高木お寛さんと相応呼し海水に行く、本日清暑なれと、朝より日光燦爛にして、午後の暑熱想ふへし、○十一時皆々帰る、○午餐はサルジンキ、塩豆□□□□等にて白飯三杯等ナリ、了て裏便所へ行、小便快通、了て午睡に就く、其後蕨団子出来て、起出て一同喰之、味佳なり、其後入浴行水、○本日南風□□アリたれと、雲気未タ多く曇りたるを以て□暴風悉無し、明日以後は如何ならん、勃平、入浴前池畔ノ山カ、シを突殺したり、○□□□□より秀人末妹を携へ大磯へ来りて、高木氏へ館す、末妹は余ノ家に参り来らず、本日秀、五時三十分瀛車に東帰す、勃平此を見送る、○入浴中百屋(餅、以下同)より酢を贈り越ス、晚餐此を用ゆ、○其後勃平、射場ノ帰路、梨ノ実カを取り来り、蚊帳外に此を切り食ふ、金太帳中ニ在り、此行て丸ことにて咬シリ食ふ、一奇事なり、

九月一日『金』朝灌腸、通利沢山あり、其後湯殿に行き洗顔、灌水、座に復し、牛乳一合、麵包一切レ、茄子一ツ二ツ、其後時雄は高木ノ誘に依り、花水川へ蜆を採り

「西周日記」

に到り、^く三^三鳴ノ子供、高木ノ子供と合せて歩にて、□□等十二人なり、後植木屋来りて、白百日紅を亦紅百日紅ノ根に植へ、此白百日紅を其先キへ植へたり、此にて植木屋帰る、湿電は始メ時雄にて、後菊此を主管る、此を了る、○勃平は其後射場に至往きたり、○午餐はおこせの味噌汁、サルヂルク、茄子~~ノ~~糸瓜ノ魚□等ナリ、其中間裏便^(所)へ行く、小水通回にて乳牛一合なり、了て勃平射場に至り、時雄海水に行く、○海上白帆多し、天候は午後扯裂なり、午前は北風たれと午後西風と変したり、○午後一睡^(雷)後電鳴強くして驟雨来ル、傘を為持遣はス、夜半勃平射場より帰り色こ談あり、

九月二日『土』晴、本日曇りたれと渴々の晴なるへし、南風なり、朝早起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、辛し漬茄子三切、蜆汁一杯、後小水に行く、南^(緑)椽に出、て、勃平扶け草履を履かせ、縁側を下りて四足亭に至り、富山を見んと欲す、勃平日ふ、招仙閣突出に高峰を障支せられ、即ち帰り、就座、此時舛子、時雄、草採に従事す、其後勃平、時雄、海水に行く、○金太、色こねたること甚し、遂にむかへに□を□□□□□る、其後裏便所行く、小水通利す、勃、時、等ら帰らず、高木お清さん酢を作りたりて裾分す、其後菊湿電を行ふ、余り利かす、午前なれと一睡ス、○本日きよ子より通報、紳六郎は八月廿六日に無事龍動着之由、只今水交社より通報ありたりとあり、○午餐は高木ノ酢、周、舛、勃平、高木お寛さん、除時雄、お歳、お清、^五四人なり、跡は小水ノ□□無し、○勃平、時雄は其後海水、また^射場に至り、時雄も同し、茲に一奇談あり、高木□□舛□□□□午睡し、賢次君□を以て之を脅かしたれば忽ち□□して□□□に復したりと、晩飯は鰻鯉なりと、○夜中勃平、時雄と共に射場に至る、其後帰宅、

九月三日『日』晴、風は朝より南方、朝灌腸、通利平常なり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳一合、辛し漬茄子、其後湿電、時雄主司此、新葉能く利く、其後裏便所へ行き小水通利、其後午餐は鱒ノ甘酢にて白飯三杯、茄子ノ漬物等ナリ、其後遽に□通を覚ゆ、尤も飯前牛乳一合を喫したり、夫故か俄かに便通を促かし厠に就て下利一半あり、其後湯殿に行かんと思へと未た午餐済にて午後ノ入浴行水に間あれば浄水に暇なし、乃ち手を洗ひ再び牀に就く、此騒に勃平、時雄、皆逃げ去る、此時驟雨ニテ南吹掛来り、お歳、お^府等も皆去て高木に行く、高木諸兄□□□□、吹掛け亦来らんとす、南方曇る、乃ち北首南足にして牀に就く、○本日は昨来濁々せし、此時高木夫婦来ル、次に□へ□□に逢ふ、○高木君より贈り物、カラスミ、昆布、^府たらの子漬なり、○時雄、三時三十分ノ瀛車に出立の様子之処、四時過まで国付津瀛車来らず、○高木より跡ニ而日本酒三本□□到来、五時入浴行水、其後時雄、再帰り入浴、○其後勃平、射場より帰り、同じく入浴、而後に食に就く、其後勃平、射場に至り三百本程射て帰宅、其後舛子、□□^為運動を試む、

九月四日『月』朝南風、昨日之続、吹掛け屢甚し、後南方少く晴る、○朝湯殿に至り洗顔、灌水、後復座、麵包一切レ、乳牛弍合、茄子少く、後裏便所へ行く、其後高木寛兼君、大磯を去る、送る者許多なり、三嶋一家内□□^{〔ママ〕}児女とも、高木富子、西舛子、共門傍にて、○其後高木氏^前地代を払ふ、三拾三円六拾銭ナリ、百足屋紹介す、○勃平、射場に行く、始にお歳、お潮と戯れ、お寛さんも同く戯れ居りしが、何時の間に出立したり、○本日は為吉暇乞ノ由にて、為吉病氣ノ為、□□ノ息子に托したりといふ、○夫程ノ事もなし、○其後豊住好より□□□□□、お貞□□□□、○相沢英次郎より薩州帰郷後挨拶礼状届きたり、今晚は豊住児供兩人を呼び晚餐を供ス□□□□□、○勃平は九日を過ぎされと、豊住へは帰らすとて、再ひ的場へ出かけたたり、○明日三時三十分にて一寸帰京の相談整ふ、下女は随へすと決ス、此下女話尤堅く給ひたりと見へ、三時三十分^{〔ママ〕}ノ予約申し帰り行、高木家を仕舞ふノ拳に一同誓盟したりと見ゆ、

九月五日『火』晴、午後熱なるへし、朝灌腸、其湯殿に到洗顔、灌水、其復座、麵包一切、牛乳一合、其後裏便所へ行く、小水一回、其後勃平射場に至る、其後お寛さん、お歳、お潮等、結髪、碁石を以て遊戯をなす、其内勃平は^{〔例〕}列の浜射場至りたりし事と見ゆ、本日之瀛車ハ三時三十分^{〔前〕}発にて夕六時過着、△

九月六日『水』本日朝起、湯殿ニ至り至り洗顔、灌水、了て下の間に着ス、麵包、牛乳^牛一合、本日三崎座観物と極む、梅供すと極む、只今三崎町^{芝居}より断り来る、明日之事に極める、午餐はさわらのてり焼、白飯ナリ、了て表便所に行き小水通過、了て楼に昇る、舛子は午後瀬脇、林、及び□□後赤松へ死装の見舞に行く、銀行へ行く、序に座椅子を買取る事を命ス、銀行へは弍千円の内五百円を当座と為し遣ふ、后舛子とともに豊住好来ル由、雞ノ土産ありと、

九月廿七日『木』朝快晴、早朝、湯殿に行き洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳一合、茄子之漬物等、本日十時より三崎座観物と極む、○舛子は夫迄豊住好方へ行く、本日朝築地本門跡火災あり、

九月廿八日『金』朝快晴、早起、灌腸、其後殿湯に行き洗顔、灌水、其茶ノ間に復し、麵包一切レ、牛乳一合、○本日築地霊岸嶋辺火災あり、或は深川なるへしといふ、○本日帰磯と決ス、○其後上楼之後、俄かに下利を覚ふ、就廁下利一行、○此時^経教師屋来ル、頗る扶持ス、○其後天候亦曇る、僅かに青雲を存ス、○舛子も昨日豊住へ行く前、瀬脇へ立寄り、其診察を受けたる処、病は大に良けれども肺病の恐れ無き様能く服薬すへしとなり、其後牡丹^{〔餅〕}を食ふ、きよ子の馳走ナリ、午餐は西洋食ナリ、

九月九日『土』朝起、晴、見太陽、色紅にて高木左より出つ、其後烏帽子岩望能く見ゆ、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳一合、其後裏手水所へ小水一度、其後切爪手足共、縁先にて、其後勃平、射場より返ナリ、□に□□して山

「西周日記」

越へ停車場に至り、十時発車ナリ、豊住に至る、○本日カルマンゼンシヤー号より
紳六郎発手東届く、英国船中にて認むと見へたり、○勃平発の前、菊湿電を作り電
気を掛けたり、電気ノ個所等ハ平常ノ通ナリ、○午餐は疣鯛ノ煮附と新漬菜ナリ、
□となり、了小水一過、其後就寝、○本日夕方、植木屋兼而約束のもちの木大樹運
ひ来り植ゆ、昨日の続にて、十日朝より植木屋職人来る、本日北海道胆振国永見裕
氏へ書状を出ス、△

九月十日『日』晴、午後暑気強かるへし、○早起灌腸、通利少し、其後湯殿に行き洗
顔、灌水、其後復座、麵包一切レ、牛乳一合、其後裏便所にて小水一回、其後湿電
一回、菊此を主管ス、○山口県豊浦郡長府村松本廉平へ書状を出ス、○学校生徒裏
道を通る、○本日より□□□□□ヲ□にて□る事に決ス、時事新報来ル、○前岡ノ
林を除伐ス、○

九月十一日『月』早起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳一合、
其後裏便所に行、小水一回、其後湿電一回、菊此を主掌ス、○午餐は糸瓜の蒲焼、
鮭魚の甘酸など、白飯三杯等ナリ、中間小便に行く、跡ニ而牛の乳一合、晩は真の
蒲焼と極めたり、此節ノ天気、午前は北風なれと、午後は必南風と極りたり、○午
餐後就寝、午睡と極めたる間、急に下利の気味を催ふしたり、安に急便なるを言ひ
□□□□□例の通ニに及ふ、内机の前に至りる時に下利したり、夫より湯殿に至り
灌水之外体浄め、復席するに至れり、如此ノ急場は時こある事に覚ゆる、勃平此を
□□本日は悪罪に帰たり、其後就寝、猶□□□分なり、仍而再大便所に行く、頗ル
通利あり、復□□□□□□□□、△

九月十二日『火』早起、湯殿に至り洗顔、灌水、其就座、麵包一切、牛乳一合、其後
安、勃平宛太田の手帑を出しに行く、国府津一番瀛車の間に合ふ、此時裏便所へ行
く、快通ナリ、此時前堤止の高木番屋を取払に掛る、○植木屋早朝来り、本日ハ珊
瑚樹を運び来り植るへしといふ、赤き実の樹なり、○時に七時半過八時に近し、国
府津二番来る、最^(二重書、下不読)□□□□□、其後湿電一回、菊此を主掌ス、○珊瑚樹□□□□ノ
詔にて桐之脇に植たる由ナリ、其後裏便所に□□不通ナリ、午餐は辛鮭を売り来る、
大魚ナリ、夫に極めとす、○午餐前安を呼び、裏便所へ行き小水十分、其後就座、
鮭の焼物、茄子の□□□に飯三碗ナリ、十分多食ナリ、○其□□□の珊瑚樹を見に
行く、良き池庭ナリ、午後四時、丁丑乱概二冊乾坤を見了り、灌腸了て入湯潮湯、
□□□□□端書ニテ写真の礼を申越したり、○晚餐は牛肉、大磯ノ分能く煮熟た
る□鮎の□焼等なり、△

九月十三日『水』晴、北風なし、昨日より^風□向変したり、○朝湯殿に行き洗顔、灌水、
復座、麵包一切、牛乳壺合、了て裏便所に行き小水、其後湿電一回、菊此を主管す、
時十一時過なり、本日習風烈し、北を交へたり、○本日江の鳶烏帽子岩能く見たり、
時こ片瀬の日蓮太鼓能く聴へたり、天候は北方晴明、海上平たく一寸水濁れり、○

午餐は国よしの鰻鯉めし、其裏便所に行く、小水能く通す、但其前起立の際転倒して家人を驚かしたり、○午餐後一時頃より午睡、其後表便所へ行、小水沢山、其後新聞を見、晚餐は煮こゝりの茄子水煮、鮭魚ノカラスミ等ナリ、山県夫人薨去ノ由、新聞に見へたり、

九月十四日『木』晴、朝湯殿に至り洗顔、灌水、再復座、灌腸、再湯殿に行き洗顔、灌水、然ルニ本日山本ヨリ山県葬式と、且昨日勃平復職果たる由、好より報知有し故に、植木へ後事を托し、本日三時まで之積りに定む、○本日朝植木屋桐の蔭に珊瑚樹を植り、後事は総而を植木屋へ托し置く、○元老院非職満期は十月十九日なりと、紳六郎書状に、○本日出京一時二十一分大磯出発東京着四時前なり、途中記述□□□^(八)勃平すへき事只病人あり、晩間晩開来る、晩飯を食して去る、

『勃平復職、』

九月十五日『金』曇、此の分之□裂あり、午後ハ降る歟も知れず、本日山県夫人葬式へ金五円を為持遣ス、請取あり、本日早朝小水後湯殿へ行き洗顔、灌水、復座、茶ノ間にて麵包一切レ、牛乳壺合、茄子二切、而后楼に昇る、其後楼上ニ而小水一度、○本日九月分非職元老院より、判を為して山本に渡ス、○本日高田より祝ノ餅来る由、お舂いふ、○瀬脇より差越スなり、○午餐は高田餅象煮なり、其後舂子山県葬式に出行ス、其後楼に昇り今に至る、○舂子の留守に高木富子、勃平の悦に來れり、○勃平夜中來ル、明日より司番之由、

『此夜七時半地震あり、直ニ□止ム、』

九月十六日『土』朝曇、早起、灌腸、通利沢山あり、其後玄関より湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳壺合、茄子二切レ、其昇楼、本菊宿に行く、○舂子直に瀬脇及豊住へ行く、留守に瀬脇姉来る、軍次郎の左右杯聴く、紐育より左右ありたる由、此頃は龍動に相逢ふへしと、午餐前帰宅、午餐ハ杜首魚ノ飯三椀、外に祭日鰻頭糯杯、○午後舂子并にきよ子ハ婦人衛生会に行く由なり、

九月十七日『日』雨、本日朝起、灌腸、其後湯殿至り洗顔、灌水、其茶ノ間にて朝七時半瀛車□□發十時大磯着、○本日朝表便所にて小水通利あり、本日岡、久米八芝居へ行く、きよ子誘はれたり、其後如何哉、本日より便あるへし、△□□

九月十八日『月』本日朝起、灌腸、其後湯殿至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳一合、茄子一切レ、其後裏便所へ行き小水一回、其後植木屋來り、楯櫓ノ大樹を勧む、其他李、牡丹杏、珊瑚樹等、此を買事に決す、未だ取り寄す、本日取り寄ス筈、○其後裏便所へ行く、小水一過、其後湿電一回、舂子此を主管ス、通常ノ順序手順ナリ、○其後植木屋ノ職人野芝を植込三廻、○午餐は鯖の生浸、白飯三杯、牡蠣ノ□二杯、牛肉ノ□□□□二杯、其後表便所へ行き小水一回、○本日は曇なれと雨は降らず、烏帽子岩能く見ゆ、其後ハダン杏、牡丹杏、李二本を見に行く、猶袖香二本なり、不知何物を、晚餐ハ鰻鯉の蒲焼と糸瓜の蒲焼等なり、金太亦糸瓜ノ

「西周日記」

蒲焼を食ふ、晚餐後舂子運動□□□□、安此に供す、

九月十九日『火』曇、朝湯に行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切レ、菓子一ツ、茄子一切レ、牛乳一合、其後裏便所へ行き小水通利あり、○岡守節夫婦より勃平復職之悦通報あり、○其後湿電一回、本日は菊此を主管ス、個所部位同し、其後表便所へ行き小水快通あり、○此時既に九時ノ荷瀛車来りて十時前なり、○早朝より草採ノ日雇男女来ル、植木屋婆も同し、○午餐は松魚ノ刺身、ズイキの酢合等にて白飯三杯、食後裏便所にて小水通利あり、時事新報も来れり、読ミ了て寝^{午睡に}に就く、○植木屋は来らず、○本日の天候は朝曇の処、八時頃より既ニ薄裂変し晴天となれり、南風なり、初ハ烏帽子巖見へさりしか、後には見ゆるに至れり、○其後は南風烈し敷、一時庶人皆困却せり、

九月二十日『水』朝雨、早起、灌腸、通利相応なり、其後湯殿へ行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切レ、牛乳一合、其後裏便所へ行く、小水通利あり、○其後植木屋来ル、昨夜の柏を庭へ引入に掛る、中〜大木なれば容易ノ事に非らず、○此時家人酢を作り、鉄道工夫長へ贈らんとす、兼而百足屋の囁もあり、鉄道を多少池水杯を落、多少被害を為すなり、其挨拶ノ為ナリ、○未だ植木屋の柏ノ木十成せず、此時既第一第二ノ国府津瀛車通過ノ後、第二東京瀛車通過ノ後ナリ、○本日雨天なれば仕事為し難し、漸くにして雨止あり、○柏ノ大木、十一時過にて植附済む、○其前時事新報来ル、○午餐は酢し、即ち停車場ノ事務員^カに贈るものと同様、只別にカラスミあり、○其前裏便所へ行く、小水通す、○午後は漸々本降りとなり、四天□ニ烏帽子岩も見へず、晚餐ハ寒さに依り湯豆腐を命したり、併新柏樹の為には其所を得たりと謂ふへし、

九月廿一日『木』終日曇、朝霧、晩方豆腐飯を用ひ、頗ル満腹を覚へたる処、安、早朝に來り、塩湯を勧たり、故に急に便を□す、菊、助けて衣服を掛、漸く便所に行き自然ノ通利あり、灌腸、猶余慶ノ通利ハ無し、其後湯殿に行き洗顔、灌水、就座、麵包一切、乳壺合ナリ、後裏便所にて小水一廻、其後坐敷□ニ而湿電一回、菊主管ス此を、○晚餐は若松屋の団子、□野ノ味噌汁、飯半杯等、其前入湯潮湯、□□□就寝、

九月廿二日『金』曇、本日早起、灌腸、通利存外少し、晩夜若松屋の団子を食したれば尤なり、○後山本来ル、三十間堀の左右を聴く、勃平の書物、白ラット等ノ事なり、おきよ手昏、亀井□□勃平復職ノ悦手昏、寿丸、周等兩人宛の手昏なり、○十時山本出発、気揉んで煙子入を忘れ、煙草を忘れてたり、○其後裏便所へ行く、小水通利少、○其後牡丹餅を喫ふ、月見団子の積にて若松屋杯へ遣はす積なり、十時前山本帰る前、湿電一回、菊此を主管す、○其後裏便所へ行く、小水一回、尤牡丹餅食後なり、○本日は植木屋主人とも職人総て来る、柏の下を式岩を置き、小梅をも植る積り、委細植木屋託したり、○其後牛乳壺合を呑む、午餐は黄な粉、餡、胡麻

の三種の牡丹餅、及□カラスミ□□□、午餐後小水、○午後三時過植木屋職人と共柏樹の大木植了る、其後牡丹餅を遣はす、此時表便所に行く、小水通利沢山、○晚餐は真鯛の浜焼、カラスミ等ナリ、茄子の煮物等なり、

九月廿三日『土』朝曇天、早起、湯殿行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合、茄子少こ、其後魚屋来、烏賊を買ふ、○為吉、朝担来る、海水、○其後裏便所ニ而小水一行、○本日藤沢遊行寺祭清〔礼か〕仍来らず、植木屋も其導きとて来らず、職人とも一切来らず、烏帽子岩は微かに見ゆれとて曇天なり、午後或は雨降るかも知れず、江の島も見へ兼たり、○時既に十時後なり、○十一時牛乳壺合、其後直に表便所へ行く、小水能く通ス、○其後時事新報来ル、○午餐は烏賊の切焼、里芋、糸瓜の蒲焼、白飯三椀等なり、金太、尤糸瓜の蒲焼を欲かる、

九月廿四日『日』曇、併烏帽子岩は能く見ゆ、朝灌腸、通利少し、其後湯殿へ至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切レ、牛乳壺合、其後裏便所へ行く、小水通利あり、其後庭前へモチの樹を植うるとして座敷へ出つ、大樹故中〜□□□たり、其間再び便所へ〔行〕き小水通利あり、其後湿電一回、菊此を主管す、○本日相沢令夫人来る由、昨日端書来送、本日十時の瀛車にて来臨なり、お舛は半信半疑、出迎にも出でず、只菊を出して停車場まで出仰ひせしめたり、此より席も盛になりたり、○此日植木屋ザボン一鉢を贈り呉れたり、午後雨、一時半晴を催ふしたれば午睡に就く、○晚餐ハ鰻鯉飯二三杯杯ナリ、本日小水二度、

九月廿五日『月』快晴、早起、湯殿に行き洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳壺合、其後裏便所へ行き小水せんと欲す、忽腹裏電鳴喧〔雷〕なり、大便通利なす、大便を収め再び大便椅子を開く、此に依て息ミたり、其効無し、只小水のミ通せり、是第一失策とす、其便気例の如く便所へ行かんとし小便坐に通利す、是第二失策なり、午餐は例の杜首魚飯二椀、其前例牛乳壺合、○本日は相沢令夫人馳走之為、義太夫を呼はん欲したれとも帰京の由、無拗□玄を呼んで、午後此□□□□を聴かんと欲す、本日は植木屋来らず、如何なる訳なりは□□□□□□□□□□ならず、晚餐庭に小梅を引来る、即ち小梅の大樹二本なり、壺本は既に引込□一本は猶門外に在り、依て忽ち策変し、小梅は庭内に植かんといふ、明日之を命す、

九月廿六日『火』半晴、朝は曇なり、早起、湯殿に行き洗顔、灌水、其後就座、本日は麵包ナシ、飯を食す、唯一杯、其後表便所へ行き小水通あり、再裏便所へ行き小水を試む、通利無し、○朝植木屋職人と共に来る、依而其個所変するを示したり、○其後再び灌腸、通利少し、其後再び湯殿に至り再び灌水し、其後湿電一回、菊此を主管す、其後裏便所へ行き小水通利あり、○十一時過牛乳壺合を呑ミたり、○二時半山田記貫君〔備〕来ル、依而勃平に祝を言ひ、午後四時後の入湯にて、山田お民の談あり、只実事に就て実を言ふ可しといふ、

九月廿七日『水』曇雨、早起、湯殿へ至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺

「西周日記」

合、其後裏便所へ行き小水、本日東京 出発と極めたり、十時人車にて停車^{〔場〕}に至り切符を買ひ、□長の教に随ひ先之方乗り、横浜を過ぎ品川に着し、爰にて相沢飛姉さんを送り、此時山田君下車して色々世話す、其後新橋停車場に来る、山田君再扶けて歩行す、此時舂子に□□□□□□□□、

九月廿八日『木』曇、未だ明かならず、後に記すへし、早起、夜中ノ溺を為し、上を廻りて下に下り、玄関より湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶ノ間にて麵包一切、牛乳壺合、其後二階へ昇る、舂子既に^{〔墨カ〕}□箱を樓上^{〔カ〕}に送る、時に勃平の左右あり、昨日御守衛にて来るを得す、今晚は聯隊長より命せられ翌月数学ノ教授^{〔カ〕}に掛るを以て七時過ならては帰宅を得すと、当番兵士を以て来り報ス、○故に山田記慣の談も自ら遅すへき訳なり、今朝来るといひしも又々延引すへしとおもはる、兵士に余りの書籍を付して帰らしむ、午餐後人力車ニ而芝勸工場に行き、二階ニ而豊住餞別として□餅壺□を買ふ、了て保坂に行き、序なから先^{〔カ〕}に買ひし朱唇花青草を問ひに、鳳仙花なりと答ふ、其後牡丹餅を喫す、其後山田君来ル、○第五時過勃平来ル、愈難し事に決し断を表す、

九月二十九日『金』曇、朝相沢来る、午餐を食して去る、其前山田記慣君一宿して去る、○舂子、別府、其他岡へ見舞に行き帰る、今度は芝居も無し、明朝帰磯と決ス、今晚勃平帰る故、明朝まで延引す、○午後舂子、買物に出掛る、其前舂子、書状を認め豊住へ昨日の買物を送る、○午餐は杜首魚の飯、蚕豆等ナリ、鰈魚の煮附あり、食ふに暇無し、其後舂子買物に出つ、○然ル処、学士会院書記より、西周は非職俸給頂戴の者ニ付年金下賜被相成旨達来ル、○同時に加藤弘之君書状とも来ル、○新坂お成、近日北海道へ出発ニ付、□縞壺反遣ス、○（尤六月より会院奉職分ニ付四五ヶ月分は□□□□□□□□□□来るへしなり、△

九月三十日『土』本日早起、湯殿に行洗顔、灌水、茶ノ間にて麵包を喫し、其二階にて灌腸、通利□□なり、夫より停車場に至る、朝八時新橋停車場発、十一時大磯着、○○勃平勤職場所は近衛歩兵第三聯隊第七中隊、中隊長藤村忠誠なり、聯隊長ハ別府なり、帰宅後食事ハ先つ牛乳壺合、其他白飯三椀、栗、鰹魚の刺身等ナリ、□ニツ、而后就睡、○入浴後、晚餐ハ石持ノフライ、桃等、食了就寝、

十月一日『土』曇^{〔烈〕}、北風列しく、八時より江ノ島烏帽子岩見ゆ、早起、湯殿へ至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳壺合、茄子一切、桃少々、其後表便所へ行き小水、其後裏便所へ行き小水通利あり、其後湿電一回、菊此を主管す、個所并に部位も同じ、新電利能し、○其後時事新報来る、午餐は赤鱸^{エト}ノ味噌汁等ナリ、○明日ハ天気と見へ、夕方より烏帽子岩見ゆ、晚餐の為に、いはし及たこを買ひに遣はしたれ□魚は入手成ル得す、依而サルシンキ、腹の小、桃煮等にて白飯三椀□□なり、了て裏便所へ行く、小水通利 而□就寝、

十月二日『月』昨夜十二時裏便所小水に行き、腹満下利を覚ふ、^{〔難カ〕}処かに家人を促かし大便所を開かしむ、事了て速に椅子に行けといふ、尻を端折て行かんといふ、其内立なから大便通利あり、遂に大失策をなしたり、遂に菊を起して数行の大便を紙にて除ひ取らしめ、別に　　を起して湯殿へ誘ひ灌水をなさ為らしむ、而後に漸く再び寝に就く、是二時後なり、故に本日も通利通常に反せり、午餐ハ牛肉等なり、桃の煮物もあり、白飯二椀ナリ、是昨夜サジスキの膾氣を覚へたればなり、今一旦は何時も如く、麵包一切レ、牛乳壺合故、別に消化に害なし、午餐は□にて牛乳壺合を喫し、後膳に向ひ諸礼の物を食ひたる故、午餐後表便所に至り小水せんと欲したれと小水不通なり、故再座に返り腹裏を消息するに再便氣を覚ふゆる、予メ家人を戒め料樹之便椅子に倚り息む数次、大便下利二行に及ふ、即ち歇む、此を本日のくそ騒動と、従而午后就寝、入湯を待つ、五時入浴潮湯、○本日午前湿電を行ひ、菊此を主管せり、部位個所も同し、　　其後晚餐牛肉の葱汁物等ナリ、下利の為自少食なり、了て就寝、△
『十一時頃少この地震あり、』

十月三日『火』渴々の晴、早起、湯殿に至り洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳壺合、其後裏便所へ小水通利あり、○本日植木屋早に来ル、兼而詵置し柿、ゆすら杯移植す、○九時過舛子、沢氏を訪ふ、帰路は本道よりナリ、其留守に湿電を掛る、菊此を主管ス、時正に十一時なり、了て牛乳壺合を呑む、沢氏の答は何れ東京に帰りの上といふ事ナリ、時事新報も同時に来る、　　夕方前百足屋来り、例ノ鉄道敷地開拓の事を述へ、帰りに九州ノ昆布菓子^{〔り〕}を□□□去れり、事節ハ宮内省官員、併て太政官の時ノ学制取調を命せられ、次て兵部省出仕被仰付之事、命あり□□□、^{〔二重書下不談〕}調終りたり、晚餐ハ□ノ卵漬、栗ノ煮物□□□□□等ナリ、序に小水に行き、寝に着く、△快
『下強、』

十月四日『水』朝雨降る、早起、昨夜蚊帳を釣らす、夜中再困却して釣る、安、油を覆して叱られたり、○本日早起、湯殿に行き洗顔、灌水、復座、麵包一切レ、其裏便所へ行く、小水通利無し、其後再裏便所にて通利^{〔り〕}あ、則ち灌腸を行ひ、少しく通利あり、夫より小水も通利自由なり、其後湿電、菊此を主管す、頗ル利く、十一時頃より烏帽子岩能く見ゆ、時に植木屋の家内卵を持ち来、婆こは東京にて信州へ帰る由なり、時十一時牛乳壺合を呑む、○其後午餐ハ石持^{〔煮〕}の着肴、栗^{〔煮〕}の着物等なり、俄かに便氣催ふし裏便所の便所に行くといへとも別に通利無し、則ち湯殿へ至り灌水払拭し、再び就机、只看彼岸、従来杓々ノ裏に在る□、本日真の快晴に赴くと見え、其□を顕せり、是を□□のミ、而朝来の雨ハ歇ミたり、○晚餐は牡丹餅、茄子ノ香の物、茄子ノしき焼等ナリ、裏便所へ行き、就寝、

十月五日『木』曇、雨終日降らず、其後晴らず、猶曇天なる様子、早起、湯殿に至り

「西周日記」

洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳壺合、茄子等なり、其後裏便所へ行く、小水通利あり、其後山辺より牡丹ノ書付届く、十月三日出なり、菊の□□持ゆる由□、○其後湿電一回、部位個所も同じ、菊主管も亦同じ、時に東京第四回気車就く、○此時より海上に白帆船を所こに見る、風向変せりと見、時終に今迄は北風なれとも西風ニ変したる哉と考ふ、○此時十一時前なり、○時事新報来ル、○其後かニー丸二三塊を食ふ、其後牛乳壺合を飲ミたり、其前裏便所へ行く、小水通利あり、○午餐はかますノ塩焼、ジガタラの肉□煮、牛舌の塩辛等ニテ飯三椀等ナリ、尚□□もあり、本日晚餐ハ赤小豆飯、葱□□、牛肉なり、赤小豆飯ハ速く命したるを昨夜ならず、きよ子ハ未だ□□□り、△□□ナリ、

十月六日『金』曇、雨朝より、本日は晴相も無し、朝起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、櫛り止む、麵包一切、牛乳壺合、其後灌腸、其後数度大便椅子に凭、然れとも十分の通利無し、依而湿電を始む、本日午餐ハ色こ之注文あれと遂に牡丹餅と定む、湿電は菊此を主管す、部位個所も同じ、只利き少しと覚ゆ、或ハ灌腸器の破損もあるへし、山辺より送附の牡丹十二種届く、何れ植木屋を呼んで此を植へしむ可し、○本日昨夜のきよ子より端書届く、九日歌舞伎座と定めたる由なり、依而八日東京行と定む、但し□ノ由なり、○十一時に牛乳壺合を呑む、○午餐後入浴潮湯、其後晚餐ハ平正の焼肴、お萩、蕪□レ草の煮物□等なり、別に白飯を用ゐざる故、食後裏所^{〔便〕}に行くも小水不通なり、○本日の気象夕方へ少し、明日は晴なりと思はる、明日牡丹も植う可しと思ふ、きよ子の手昏に□□□□三拾円にあり、

十月七日『金』^土快晴、早起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳壺合、其後行裏便所に行く、小水不通なり、再就、○本日は植木屋、牡丹ノ植所ニ就き議論アリ、漸くにて中座敷の前と定む、又植木屋石灰細工の事あり、是も兼而命する所なり、色こ混同す、九時前電湿分を始む、其前裏所^{〔便〕}へ行く、小水通利あり、○植木屋、水引草を贈り呉る、植木屋ノ□号、主人か菱ノ内、船形ノ字、百ノ子、蓋し百足屋の出入を表スル也、其外発、宝あり、端棠あり、大光あり、船橋あり、尤□なるへし、祖父の子なり、ハ□□と号ス、猶二三人あるへし、○本日浦賀の台場ニテ発砲ありと見へ、其響此方に聞ゆ、○湿電、菊此を主管す、部位個所同じ、○十一時半前牛乳壺合を呑む、其後裏便所へ行、小水通利あり、○午餐後一午睡、了て後表便所へ行き小水一過、了て後椅凭り、常時ノ如し、○今晚も鰻鯉と謂ふ事なり、例ノ鰻鯉 飯後裏便所へ至り、帰り来れる、停車場は光燦如し、

十月八日『日』晴、本日朝十時大磯発にて東京へ行く、留守番、為吉、菊、安、三人なり、朝入浴潮水、其後出立、大磯よりハ病人□□人とも歟、其後浜近処にて少留、戸塚にて好に舂子逢ふ、一目両方笑を遣て礼したる迄ナリ、着後勃平来ル、勃平帰着来ル、二十八日之由なり、其後休暇を□得れハ大磯へも来ル可しといふ、

十月九日『月』曇、本日は新城^{ニユカスル}より差出し手紙届く、然れとも新聞も届きたれとお

きよより度々差出し手紙は届かずといふ、郵便箱に差入れありたりと、○十一時前より歌舞伎座へ行く、○次に朝日屋来ル、衣服の事に附てなり、○其後佐野君来る、干飯製ノ牡丹餅一切レを食、故に亦□便に行く、きよ子、此を扶く、○此日帰宅夜八時なり、其後就寝、△

十月十日『火』晴、朝湯殿に至り洗顔、灌水、其後食堂に帰り、麵包一切レ、牛乳壺合、其後二階に登り調物をなし、其後舂子火鉢を買ひに行く、おきよも共に、其後火鉢を買ひ来ル、○勃平端書来る、昨九日発ナリ、千葉小金町旅宿とあり、十四五日佐野町へ着の積なりといふ、佐野町ハ何つレの処か 地理不案内ニテ会せず、其後楼を下り午餐に就、午餐ハ初茸、其他色々の品あり、其後表便所へ小水に行く、出でず、止て楼に昇る、○其後二階にて一睡ス、○西寿丸より十月一日一昨日十月八日届く、本日四時入湯、其後茶ノ間に居り少々枕をし伏し、暫して晩食になる、晩餐は□□すし、^(経)教師屋贈り物色々、後表便所に行、小水通利あり、即ち昇楼、寝に着く、

十月十一日『水』朝二番瀛車ニテ大磯へ帰ル、お貞さん停車場まで、十時後大磯に着く、途中にて津田東君に逢ふ、彼ハ横須賀行にて大船にて別れたり、此方帰同車せしは溝口伊勢□□能く見覚へず、故挨拶もせず、横浜より婦人、令嬢、男子等乗組ミあり、皆大磯で□□、^(二重書、下不説)○午餐後斎藤誠次郎来ル、聞けは親談斎ハ昨年死去の由、此を憐香典一円を贈る、其後午餐以来の表便所に行、誠次郎ハ三時三十分の瀛車にて帰京ノ由なり、○本日植木屋牡丹之花壇二個所を作る、大光、船、もちの木、の伐込□□、晩餐鱈の焼□、牛肉ノ南瓜茄子等ナリ、而后就寝、

十月十二日『木』渴この晴、雨猶降らず、朝起、湯殿へ至り洗顔、灌水、其後灌腸を忘れたるを以て灌腸に従事す、水計にて糞出でず、○其後裏便所へ行く、小水通利あり、其前牛乳壺合を呑ミたれはなり、○午餐は酢に鱈ノ味噌煮等也、酢二杯食す、味噌煮は食はず、其裏便所に行き小水通利あり、○本日も植木屋皆来る、大光、発棠、友貞、船方、子宝等ナリ、○晩餐ハ^{喜七}喜七の贈る所ノ^{新鮮鮭}□□□□喜よ子の贈る□□□松茸にて^(二重書不説)□□□□認めたり、本日午餐前湿電を掛けたり、菊も個所も同じ、

十月十三日『金』朝ハ雨降りたれと、十時頃より晴に向ひたり、○朝起、灌腸、通利あり、其後湯殿へ至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳壺合、其後裏便所へ行く、小水通利あり、其後湿電を掛く、菊個所部位も同じ、○其後裏便所へ行く、小水通利す、○其後十一時過牛乳壺合、是或は下利ノ由歟、○其後午餐に就、午餐は昨夜之鮭の煮浸し、栗、及鮭の焼物少しなり、○其後起て小水に行く、忽下利の気味覚ふ、乃チ緩かに大便椅子に就く、下利一行、其後尻を払拭し、後また机に向ふ、三時後入浴潮水、三時過揚る、○本日は時事新報来ル、○ウワテルマンノ民間経済家一冊、□□□□教育一冊等読し了る、△□

「西周日記」

十月十四日『土』晴、朝起、天日を拝せんと欲、座敷にて待つ久し、本来曇天にて太陽昇らざるなり、夫より直に湯殿へ行き洗顔、灌水、夫より座に復り、麵包一切レ、牛乳壺合、茄子少こ、其後裏便所に行く、小水不通なり、其後菊湿電を始む、一回の後小水急なり、依て再び裏便所に至る、小水通利あり、○此時時雄之書届く、曰く根室火災あり、幸に富雄災難を遁れたりと、大に安心なりし、○十一時例の牛乳壺合ハ止めんと思へと、本日丈ハ例の分ナリとて止むを得ず壺合呑む、○十二時前より愈雨となる、○午餐は残物の松茸、栗、真黒の刺身、大根卸し等なり、白飯三杯半にて止ス、○雨は一時間降りたれど□□□再び霽れ、好天気となれり、○午前植木屋は来りされと、発棠、大光、子宝、船形等、数人来れり、午後天気にとりたれハ又こ来れり、○晚餐ハ牛肉の人參大根と煮合せたる物、芋の煮物等なり、了て就寝、△○中止

十月十五日『日』曇、昨夜来南風ニ而雨り、南方の雨戸、終夜雨打の音を聞きたり、本日朝天気欲直たれ、天候人意の如くならず、其後数時雨り、其後八時頃より雨止む、○朝湯殿に行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合等、了て裏便所小水に行く、出でず、其後湿電を用う、其後再裏便所に行く、小水通利あり、○午餐ハ塩引ノ鮭少上□□□なり、食はず、芋あり、不食、其後裏便所に行く、小水能く通ス、○四時前入浴清水、此時北風に変し、復雨降る、○晚餐は牡丹餅、黄ナ粉の分ハ金太悦んで食ふ、

十月十六日『月』朝起、灌腸、通利あり、其後復座、麵包一切レ、牛乳壺合、其後表便所へ行く、小水通あり、其後湿電を掛る、菊此を主管す、部位等ハ同し、中間裏便所へ行く、小水通利あり、○本日勃平より手昏来る、また斎藤談齋子息談齋長男新太郎より談齋へ贈りたる香花料の挨拶端書を差越す、千葉県下斎藤談齋長男と為し記之、時東京より十時半之瀛車来る、此時裏便所へ行く、小水通利あり、○勃平の手昏ハ、九日東京出発八里にして小金井町に着、十日小金井町発六里にして守谷町へ着、十一日守谷町出発下妻着、十里にして下妻町着、十一日下妻発諸川町着、五里にして古河着、十三日諸川町着 ^{出発}古河町着、十四日古河町に滞在一日休暇、明日即ち十五より聯隊対抗運動始りたるなり、○本日朝植木屋ノ大光来り、庭中風雨に破損ノ個所ハ無きやを改め、破損ハ無しといふ、○午餐ハ国よしの鰻飯、色こノ菜辛し漬等なり、○午餐後就寝、一睡を催ふしたり、醒め来れ四時過なり、晩飯ハ目鯛ノ油揚、其他色こあり、晩色頗好し、明日ハ天気なる可き歟、烏帽子岩能く見へたり、(十月十七日参冒 頭ニ二重書)

十月十七日『火』昨夜十一時頃より疾風雷鳴、今朝七時頃迄時こ雷鳴、其時ニ暴雨来ル、十時頃より晴に向ふ、猶小雨降る、併し夜来の如くならず忽歇む、横須賀海岸一旦晴れたるも再び曇る、○朝起、灌腸、通利あり、其後湯殿に行き洗顔、灌水、復座、麵包一切レ、牛乳壺合、了て裏便所へ行く、小水不通なり、其菊湿電を装し

来る、利悪し、再新葉を用ゆ、能く利く、遂に遂に常法に随ふ、中途にして果シテ通利あり、裏便所に行く、○其後再び裏便所に行く、通利無し、再返て就座、○午餐ハ卵酢、卵豆腐及牛肉ナリ、○午時より天気復再ヒ裂を生し、漸行に薄裂ニ至る、其後裏便所に行き小水能く通したり、其後為吉に手を引れて園内を巡行したり、然れとも□□□□□□□□を巡り止む、○本日の天候、上天は南より霽れ渡る、然は是ハ北より覆ひたり歟、南東北は三方霽れ、只浮雲あり、北より南へ向ふを見たり、其後裏便所に至り小便快通、其後直に入浴潮湯ナリ、上て皆□□煮等ナリ、

十月十八日『水』朝起、湯殿へ行き洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳二合、小豆金子[□]を乾海鼠を入れたる物一二皿、其後裏便所に行く、小水能く通す、其後湿電、菊主管此を、部位個所も同し、其後再裏便所に行く、小水通利あり、○曉来東京行の事を舛子に談ス、愈〜明十九日と決ス、○本日晴なりといへとも朝霧深く紅暈を拝むこと能はず、殊に遺憾とす、○朝し子を売り来ル、殊に可なりとす、○植木屋、孫も共に来ル、其他発、□、□、貞、船戸等来り、菊□□□を為ス、○金太は湯を浴、毛を梳したり、○為吉ハ明十九日国府津三番瀛車ニ而東京発の報知の為に□□□停車場に行きたり、○午餐しこの酢熬[□]及茶飯にて味佳、満腹、其後直裏便所へ行く、小水沢山なり、○植木屋来ル、午前十一時半より午餐に帰り、午餐後亦来る、此度□□□□昨日注文の子なり、此度来る時□□□贈る□□□□、○本日の風は昨来北風なりしか、朝来南風に変し、再び□□□□の不寐を談せんと欲ス、為吉ハ曰く西風なりと、本来西風にて舟船出□□□なるなり、然るに漁舟は夥多帆船なり漁□□なり、○一睡後裏便所に行く、此時老下女来ル、大陰正に左もちノ樹ノ梢に在り、○晚餐ハしこの如くしこの柚等なり、飯三椀、○小水に行く、就寝、舛子は運動に行く、

十月十九日『木』早起、灌腸、其後湯殿へ行き洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳貳合、其裏便所に行く、^[小]水通利あり、○本日第三瀛車にて東京へ行く、十時後発川崎着十二時前ナリ、其後新橋着、三十間堀にて午餐を喫す、其後諸用事の書を見る、

『本日再び東京行く、非職給□の□□恩給ノ願いたればなり、』

十月二十日『金』東京晴、今日ヨリ、○早起、灌腸、通利アリ、其後湯殿に至り洗顔、灌水、了て茶の間にて麵包一切、牛乳壹合、了て上樓記之、本日三崎座へ夫婦及きよ子并に安共に行く、帰宅午後七時なり、△此前夜也、中途止ム

十月廿一日『土』晴、朝曇、午後は晴る可し、朝^[起カ]湯殿へ行き洗顔、灌水、其後茶の間に帰り、麵包一切、牛乳一合、了て二階に昇る、○山本、宮内省并大蔵省へ行く、宮内省十五歳以下未婚之女子の返答、大蔵省は非職月俸受取の為ナリ、○其後きよ子^{豊住}瀬勝へ行く、小泉令夫人之事に附てなり、○此時周小水一回、前度より多し、

其後少水に行く、能く通る、○松本氏ノ喪式にて瀛車道ノ前に白旗を建てたり、○
 植木屋数人来ル、^(二重書下不読)□□□□焼鮎五匹許を贈したり、此方よりは松茸を贈したり、大
 光祖父ノ子、別新顔一人あり、○晚餐ハ松茸□□□□肉の柚酢味噌にて白飯三杯并
 二焼鮎等也、了て裏便所へ行き、就就寝、^(衍)△不出来
 十月廿七日『^金丹』早起、灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後^(衍)其後就座、
 麵包一切、牛乳式合、其後裏便所へ行く、小水通利あり、其後湿電、菊此を主管ス、
 個所分部も同じ、利鈍きを覚ふ、其後裏便所に行く、小水通利あり、其後裏便所
 に行く、又小便通利あり、蓋し灌腸ノ所以□へし、本日も^(本)植屋屋職人早朝より来ル、
 ○十時瀛車にてきよ子来る便と、為吉、安、迎ひに行きたれと来らず、午後になり
 たる成る可し、○午餐は松茸飯、さんまの焼肴等なり、其後裏便所へ行く、小水通
 利あり、○植木屋職人^(左註)再ひ来る、大光、其他船方等、色々新起 雇人多し、午後一
 時過□ノ方又時□国府津瀛車来れり、此返りにはきよ子来る歟、○果してきよ子来
 れり、夫より入湯ノ前、其前庭前に降、菊花を観る、為吉手を引く、
 十月廿八日『^土夾』晴、本日横須賀に行く、早起、灌腸、湯殿へ行く、洗顔、灌水、其
 後就座、麵包一切、了て□□裏便所 行、小水通利あり、大磯七時第二瀛車にて発、
 横須賀十時頃、二時過豊住発、三時鎌倉三橋へ着、一宿、明日故物展会を観たく、
 □其為一宿、
 十月廿九日『^日奉』正時過三橋発、返路泥濘、徑路川梁掛堤に不通ノ個所多く、漸く
 にて藤沢へ達ス、同所に午餐を喫し、午後一時十九分の瀛車にて大磯へ帰ル、此を横
 須賀行の始末とす、帰宅後入浴□水、其後就食、横須賀行きにおきよ同道、為吉安
 内扶持して、本日留守来りし書状□、勃平、□□□□君、大野直和等ナリ、晚餐は
 松茸、初茸□□ノ酢浸、蚕豆等なり、記了就寝、白飯四椀、 表便所に行き小水、
 後就寝、
 十月三十日『^月奉』晴、朝起、灌腸、通利あり、其後湯殿へ行き洗顔、灌水、復座、麵
 包一切レ、牛乳式合、其後裏便所へ行く、小水通利、其後菊湿電を掛く、中間裏便
 所へ行く、其後柿を食ひ、菓子、パンを食ひ、小水に行きき、^(衍)了て菊園を巡り、戸
 □掛の花畑看、返座り、 午餐を待つ、○午餐ハ初茸、松茸、白飯式椀、其他諸種
 の物等なり、食後小水一回、○其後メ八来るとて、一番ハ三番叟、二番お国かしく、
 止三番明烏新内ナリ、三番関取千両幟、
 十月三十一日『^(衍)火』本日国府津三番瀛車にて出京、勃平は早速早速来る、女房談は中
 〽片着かず、其前山県伯より喪中之礼として茶及幅紗地を贈越せり、仙台より弥
 重剛矣の書状来ル、またお鎮よりも外子へ書状来ル、○岡の光子来訪、
 十一月一日『^水水』快晴、早朝灌腸、其後湯殿に至り洗顔、灌水、茶之間ニ而喫麵包一
 切、牛乳一合、其後昇楼、裏便所にて小水通利あり、○神野真国死去の由、十月

「西周日記」

二十一日なり、此香典を贈る、例如也、昨日大野の手昏に依り、此を寿丸に為替差
出ス積ニ定む、また中嶋敬之より之書状ハ舛子ときよ子へ其母親の礼を申し越した
るなり、○本日紳六郎倫頓より便あり、内国視学を被仰付たる由なり、 □□□
『勃平任中尉、』

十一月二日『木』本日は人形芝居観物に行く、帰宅後勃平も来ル、依而小野田氏ノ令
嬢ノ事ニ及ふ、既にして豊住へ帰る、人形芝居の処は神田錦町旧赤松の宅の前なり、
本夜光子泊る、 △□

十一月三日『金』本日早朝光子帰る、天朝節^{〔ママ〕}、昨日の続にて曇たれと、天朝節、扱
午後ハ暖るへしと思ふ、○中野君来ル、昨日よりの約束なり、○昇楼後小便快通な
り、菊来り扶く、○中野君ハ亦も□延なるも異心無き事知るへし、○仕事師金次郎
菓子折持参、昨日ノ河岸長屋の畳替之礼なり、○高橋孚人来訪、従四位殿より高橋
由一□□□、拙者照像差出之件なり、其意に従ふ旨申置しむ、○其後高木夫婦よ
り大鯛并鯛等、勃平昇級之悦^{〔二重書不説〕}□□□□□□□□、○其後小便に行く、梅来て此を扶く、
通利あり、○十一時菊帰ル、一寸宿を見□□□□□なり、○午餐後舛子外出、○其前
勃平来訪、本日は織田杯対期之約ある由ニテ、直に帰前瀬脇へ挨拶に行く、其時狗
を連れ去る、瀬脇へ遣る為ナリ、○本日青山練兵場泥濘ニテ観兵式御延引ノ由なり、
○午後南方より雲来りて青天を覆、明日は勃平返らさる約なり、○午後三時高木お
富さん来ル、四ツ谷へ至り延引したりといふ、○其後松本和吉来訪、紳六郎の艦芳
野は当時水雷艇製造中なり、本月五日にハ亦水電艇初試験にて其試験適中スレハ直
に帰に就く由なり、又海軍参謀本部と陸軍参謀本部、従来より相合はず、此度此を
同一にし、松本君ハ陸軍参謀部課員となりに□□、如此にして□□□たる様に仕度
しと事なりと、其後舛子、佐々木信綱、佐野おしけさんの所へ行き、佐々木にては
勃平の配偶^{〔衍〕}配偶、小野田氏令嬢如何を聞合す、佐々木氏令嬢ハ信濃ノ夫人^{りは}□、夫よ
り佐野氏に就て上領氏ノ令嬢ノ写真を請求して帰りたり、

十一月四日『土』本日八時新橋停車場発にて帰磯、十一時前なり、午餐後入床一睡、
晩方入浴潮水、其後就晩餐に就く、 △出来ず

十一月五日『日』早朝起き、湯殿、洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳二合、其
後裏便所へ行く、小水通利アリ、其後遽かに大便通利を覚、俄かに下利し頗ル急に
して坐立便ナリ、即ち再湯殿に行き灌水、而其後菊湿電を行ふ、能利く、部位等は
同し、○本日は早朝一旦降雨ありたれと、再虧裂を始め快晴に至れり、北方ハ正晴、
東方海上ハ微雲あり、南方は亦晴なり、薄晴なり、○午餐は絞こんふ、いわしの粟
漬、□□□□、白飯四椀を喰う、 晩餐嶋鯨、小鯛に白飯二椀、^{〔二重書不説〕}□□□□□□□□、
裏便所へ行き小水一度、其後就寝、

十一月六日『月』朝湯殿に至り洗顔、灌水、其就座、麵包一切、牛乳二合、了裏便所
へ行き小水通利あり、其後為吉に扶けられ、庭上に降り菊を観る、復座、菊湿電を

試む、能く利く、部位等同じ事なり、○本日は午餐に小豆飯を命ず、午餐遅き為裏便所へ行き通利あり、○○午餐ハ赤小豆飯、極堅し、鯔の煮肴食はず□□□食充分ならん、○晚餐ハ鰻鯉ノ羹焼なり、○次に紳六郎より端書来ル、(拜啓 冷氣逾こ相増候間、御保養専一ニ奉存候、小子□□□無事奉職罷在候、乍憚御安心被遊候□□候、去ル七月発之尊書正ニ正ニ拜受、ヲランダ及ヒ仏国旅行ハ都合ニヨリ見合、英国ノミ旅行仕候、ヲランダ之事ハ相尋不叶、右不悪御降心被遊度、当航ハ来ル八月八日に帰營、南海岸ホリマウウに向け出発之筈に御坐候、右御起居御伺まで、頓首再拜 二十六年十月三日 英国タイン河シヤロー軍艦吉野 西紳六郎、とあり、○昨日ハ仙台の弥重剛矣之返書、本日書きて郵送したり、

十一月七日『火』早起、日出を拝し、夫より湯殿に至り洗顔、灌水、寒甚し、夫より就座、麵包一切、牛乳忝合、其後裏便所行き小水通利あり、其後菊湿電を掛く、部位個所同じ、其又小水(行)に行く、其後時事新来ル、○本日ハ赤飯と聞く、其前小水に行く、通利あり、 ○稍〜夕四時までに大野直和ノ十月廿三日出書状に答書を書せり、其後小水一行、□□ハ快晴にハ非らず、薄曇にて雨は降らず、

十一月八日『水』早起、灌腸再度にて通利少しあり、其後復座、麵包一切、牛乳忝合、其後裏便所に行き通利沢山なり、其後再小水に行く、少く無調法をなしたり、是□皮を堪□すを怠りしに依る、其後午餐ハ□□汁、尤佳なり、硬飯二椀、鮎の昆布巻、満腹、其後裏便所に行く、満腹少く減す、○本日の天候ハ甚た美ならず、朝来北風之午時より俄かに南風に変したり、尤烏帽子岩能く見ゆと雖へとも□忽なり、午後三時入浴潮湯、上りて降髪梳髻、厠に至り、小水して就寝、○四時四十一分ノ瀛車にて勃平来ル、同人は始め横須賀に至り一宿して、其翌大船より来りし也、

十一月九日『木』早起、湯に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳忝合、其後裏便所へ行く、小水通利あり、其後菊湿電を行ふ、部位個所同じ、電気器少く損し利充分ならず、其後小水、○气象ハ東北南西とも昨夜ノ南風雨ニテ一掃し去り、北東南西とも好晴なり、只海上は浪荒らく高し、○勃平、十一時前射術道場より帰る、○午餐ハ牡丹魚飯、外二色こあり、其後一時勃平帰府ス、○急遽下利(二重書、下不説)□□□□□、何度もか知れず、就寝、

十一月十日『金』朝起、湯殿へ至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳忝合、其後裏便所へ行、小水、其後復座、湿電を掛る、常例に違ふて、安此を主管ス、部位并二個所ハ菊に同じ、其後裏便所へ行く、小水通利あり、○本日の天候は昭しもせず降りもせず、□より、晩に至るまで鬱陶たる天気なり、近日は雨を催す歟不勝の天気と申すへし、北東南西とも皆同じ、○晩飯に当り百足屋より牡丹餅を贈り越ス、晚餐には牡丹餅、鯔魚ノ西洋物、茄子ノ豊住等にて満腹、小水後就寝、

十一月十一日『土』夜来暁二時頃より南風起り吹き暴し、南方ノ雨戸を吹き頻り、本日十時に至ルまで猶止ます、然れとも北方は快晴となれり、東方上方晴れて海面に

「西周日記」

近き処二三許の処に頑雲あり、南方西方見るを得ず、極めて陣々来る暴風なり、午前は時々白雨を交へたり、既にして風のミとなれり、○本日早起、灌腸に従事、大便少許ノ外通利無し、余再度灌腸すと欲す、舛子の言に従、灌腸を止む、故に^(前)に其後湯殿に至り洗顔、灌水、復座、後麵包一切、牛乳式合、茄子豊住漬少し、其後菊湿電を装す、部位等如平日、○午餐ハ百足屋ノ残り牡丹餅五ツ、飯壺椀、豊住漬少し、其後小水一過、其後椅子□□□□後灌腸たる約束なり、午時過風少穏なり、□全く□得す、○昨日京都米ノ処より手昏来ル、勃平ノ事を賀するなり、また亀井さんよりも手昏来る、同しく勃平の事を賀するなり、○おきよより手昏来ル、時雄の煤掃□なり、

十一月十二日『日』本日朝洗顔、灌水、其後麵包一切、牛乳式合、了て裏便所行、小水通利あり、本日ハ快晴穏かる天気、烏帽岩、兜^(子)寫も能く見ゆ、○本日は教師屋^(終)を雇ひ障子張なり、午餐前に本座敷、中座敷と居間ヲ済む、○醴酒を飲む、○百足ヤ来訪、幸に濃アリ、之を供ス、ともニ松本鵬ノ話なとして行く、また□□の話あり、而モ入レをなくして供に此を入れ置くへしと云ふ、□□ノ説なり、○午餐何も無し、□イスあれとも腥くして食はず、只うにのミ、稍口に□したり、依而午睡に就く、○四時入浴潮湯、本日は、昨日の続^(ウ)にて南風ナ、晚餐は鰻鯉飯と香の物、満腹、小水後就寝、

△中途

十一月十三日『月』早起、湯殿に行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳式合、其後裏便所へ行く、□□□□せざる故少く粗相す、其後再び便所へ行く、此度都合能く通利す、其後午餐前再び便所に行く、快通す、○午餐は燕らの汁、サルジンキ、焼塩入茶漬三杯にて了せり、本朝昼屋来ル、午前に奥三畳を替へたり、余は何時済む歟、○本日荒木卓爾君より書翰来ル、友人師範学校を卒業したる者書を著はす、依而賛成を乞ふといふ之書なり、荒木住居は日本橋区浜町三丁目三番地也、著書は出来之上へ贈付と事ナリ、未見之書に賛成を頼むハ如何哉、○只今亦裏便所へ行き粗相を亦なしたり、舛子扶けて^(二重書不読)□□必要なるか如し、晚餐は松茸と鶏肉の□、

十一月十四日『火』早起、灌腸、通利あり、湯に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳式合、了て小水に行く、其後湿電、菊此を主管ス、新薬能く利く、只導線短くして適當自在ならず不自由なり、□□□□□□□□可しと思ふ、○今日四方快晴、北風頗ル烈、電^中後小便に行く、能くす、

十一月十五日『水』早起、昨夜四時通利無き以て早起を止む、暫く床中に在りて休養す、其後□□通利ならんを覚ふ、便所に行き通利を得、乃ち湯殿に行洗顔、灌水、了て復座、麵包一切、牛乳式合、了て便所に行く、通利あり、其後菊湿電を装し、機関損したれと新薬は能く利く、其後小水に行く、○本日おせいさんより書状来る、○本日昼屋、昨日の□□は□ノ裏をなしに来ル、其前建具襖を直しに来ル、○本日

安、しこありと呼び来り、午餐は此を用ひんとす、午餐ハしこの汁、はあさんより得たる赤飯にて満腹、其後小水に行く、通利あり、○本日朝半曇と思の外、午後より晴天となれり、○午睡数刻、^{〔澁カ〕}礼酒二杯を呑んで小便に行く、能く通ス、○若松屋より^{〔買〕}聞より売ひたりと云ふて松茸一籠を呉る、晩飯ハ杜首魚飯、茶漬□□□□□□、

当座小水後 就寝、

『本日十時前小地震あり、／本日清明る□□場ノ砲碑類に調□由ナリ、横須賀背海岸ノ前ハ□□□□といふ之□□□□□□水兵なりと為吉いふ、』

十一月十^六日『木』午前より小雨、本日早朝灌腸、通利あり、其後湯に行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳式合、其後表所へ行く、小水不通なり、其後裏便所へ行く、不通なり、其後午飯しこの酸、いわしのきら古漬等ナリ、白飯にて、頓に小便通利を覚へ、^{中間}直に裏便所へ行く、通利ありたり、其食了りに息の為メ寝に午睡、晩四時後入浴潮湯、其後晩餐ハ甘鯛、いわしのぬた、□□の糟漬等ナリ、其後裏所に行き小水通利あり、後就寝、

△△

十一月十七日『金』曇、早起、湯殿へ至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳式合、其後裏便所へ小水に行く、通利あり、其後菊湿電を装ス、能く利たり、其後小水に行く、通利ありたり、後午餐までに間合あるを以て手足の爪を取る、午餐ハしこの酢焼、甘鯛の煮にて満腹、□□□に行く、通利十分なり、○昨本日も午後は晴、昨夜雷鳴雨降の後なれば^{故なる}南風なる歟も、難□□□□、白飯二椀等ナリ、

十一月十八日『土』晴、本日早起、入浴淡水、夫より九時四十八分ノ瀛車にて大磯出^{〔発〕}六、東京へ行く、夫婦の外、下婢ノ菊を連る、午餐ハ着の上、晩餐ハ周、勃と二人にて、きよ子ハ三時頃より婦人衛生会へ至り、夜十時帰宅、

十一月十九日『日』晴、早起、湯殿へ至り洗顔、灌水、其後茶間にて麵包、牛乳壺合、了て昇楼、沢氏ノ書状ハ昨日入浴ノ時に落手せり、夫なり、其儘東京に持参セリ、○午後きよ子、新婚ノお留さんを訪問し、辞別する為に出行ス、其後勃平来ル、上^{〔ママ〕}領上の令嬢に略極めたり、故に舛子午後二時より佐野氏に行く、勃平の説を聞き其後□を極めん為ナリ、

本日十時頃より歌舞伎座へ行く、舛子、きよ子、周、菊を共連る、座にて百川夫婦に逢ふ、本日勃平も来ル、夜に入り帰る、

十一月二十日『月』晴、早朝起、湯殿へ至り□洗顔、灌水、菊此を扶く、帰て茶にて麵包一切、牛乳壺合、了て登楼、小水に行く、舛子、本日歌舞伎座へ行く也、此前□□多し、

十一月^{〔廿一〕}廿一日『火』晴、^{△□□十一月二十日分ナリ}十時より舛子本所へ行く、先祖君の三年祭を弔する也、本日福羽君ち代子の先日婚姻を賀スル為に鯉節一□□を贈る、山本使なり、晩餐ハさんまの焼物、白飯三杯、而后就寝、

十一月廿二日『水』夜雨り、朝晴、本日日本橋区元芝居へ行く、久松町明治座に行く、夜七時帰る、

「西周日記」

十一月廿三日『木』晴、本日〔〔内、昨日の記事〕〕〔明治座へ行く、夜七時帰宅、夫より入浴潮水、夜食後就寝、〕午前十一時四十分帰磯したく十一時四十分ノ瀛車にて帰磯、勃平停車場に送り来ル、□□着三時前なり、□□□□、

『神嘗祭当日』

十一月廿四日『金』早起、湯殿殿へ行きにて洗顔、灌水、其茶の間に於麵包一切、三輪漬少こ、〔前日の記事〕〔本日十一時四十九分瀛車にて後帰磯と定む〕、其後小水通利あり、其後庭前へ下り菊を観る、昨日届の永見氏ノ書状并同日届ノ紳六郎ニユカススル通帆フリアウス〔書脱カ〕発ノ端下て観る、○其後裏便所へ行く、小水通利あり、○〔ママ〕午前十一時より南風となる、○十一時四十分の瀛車にてきよ子来る、二時十五分着、勃平、上條氏婚約 事なり、夜中呼浄瑠璃読、伊賀□□□□□□□□□□等なり、

十一月廿五日『土』早朝日出前起立、塩湯を吞ミ、灌腸、了て就座、小水に行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳二合、了て裏便所へ行く、便利あり、其後灌腸、通利あり、其後就寝、きよ子帰る、就寝中送ること能はず、

十一月廿六日『日』晴、早起、湯殿に至り洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳貳合、食了て裏便所に行く、大便少し通利あり、其後更に灌腸、便机に坐し一二息の後、通利あり、○本日川松の弟へ、兼而〔録〕ガラス障子の戸袋を調へ置きし処、本日大工二人来り、為吉ハ併せて椽側の煤掃をなし、植木屋〔二重書不説〕□□、○本日午睡四時半に至ル、起立、少水に行く、能く通す、其間醴酒三杯、菓子二切レ、故小水通利あり、

十一月廿七日『月』好晴、夜来漁火見ゆ、北東南好晴、朝七時ノ国府津二番瀛車に舛子出京、途中山の上より為吉敷物催促の件あり、余表便所に行く時、東京一番瀛車上る、○本日も大工手下とも三人来りたり、○本日早起、後日出を見るに鋸山ノ向て右方少許の処より金輪昇るを見たり、其後海上霧覆降る、彼此を見ること能はず、彼此する中九時に此方来ルハ荷瀛車なり、十時五分過国府津第三番瀛車来ル、○十時過為吉潮水を酌ミに行く、○十時過東京瀛車来る、○十一時過為吉再度潮水を酌ミに行く、○午餐ハ鯛ノ味噌漬、サルゲンキ等なり、了て裏便所へ行き小水通利アリ、四時五時ノ汽車来る時は停車場へ迎へ行くへく為吉へ命して、午睡に就く、○二時半国府津第三瀛車通過する、東京なり、又東京第何瀛車通過、此時より天気曇る、○○四時三十分舛子帰宅、〔二重書、不説〕□□、越前国震災ニ付壺円を差出す、□□□□、本日九ツ極第□□□□□□引揚げたり、○勃平見合結了之由、夜中細話あり、依而三十日に東京に行と極む云こ、

十一月廿八日『火』曇、北風寒し、早起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳貳合、茄子少こ、豊住漬少し等ナリ、其後裏便所へ小水に行く、通利あり、其後菊湿電を装すナリ、部位配置ハ常時ノ如し、○金太能く騒やく、○烏帽子岩能く見ゆ、帆船多く出つ、大工ハ子供共に三人、植木屋も来る、菖蒲の株を色こ、○東京瀛車来る頃既に四時にて大工始終働く、金太能く睡る、周も午睡一起小便に行

く、能く通ス、^{□□}○晚餐ハ茶飯、鯛ノ味噌漬、三ツ輪漬等なり、食了就寝、
十一月廿九日『水』晴、霧深し、早起、灌腸、其後至湯殿洗顔、灌水、灌腸、通利あり、其後就座、麵包一切、^[ママ]乳合式合、其後裏便所に行き通利あり、○其後午前表便所に行き小水通利、舂子此を扶く、午餐はいわし、三輪漬等なり、白飯三椀、大工ハ午前に雨戸袋を修し了り、植木屋も来ル、主人、大光、子宝等なり、珊瑚ノ樹に冬籠するのミ、○本日は雨もせず照りもせず、薄日当る、鍛冶屋も来たり、○紳六郎より書状端書届く、英国プリマウス港軍艦吉野とあり、来中旬には日本へ向け発艦有れハ、十一月中旬なるへし、十月廿五日ノ手昏也、明日ハ勃平ノ事ニ付出京ノ積なれハ、此書状を持参して示すへしといふ、二時後入浴潮水、三時後出浴、
十一月三十日『木』雨、日の出甚悪しく遂に雨となる、遠雷に雨降る、早起、湯殿に至り洗顔、灌水、復座、麵包一切レ、牛乳式合、其後表便所へ行く、小水能く通ス、其後湿電一回、菊主管ス此を、^[街]□部位亦□個所も同じ、本日午後一時廿四分ノ瀛車にて、其醴酒二杯を呑む、
十二月一日『金』^[ママ]本日大磯二番瀛車にて出京、途中令嬢、老人各一人、車中不喧、横浜より他客数人あり、本日午後勃平来ル、きよ子、佐野氏へ進物の帯を持参す、
十二月二日『土』、^{其翌三日}晴、本日は勃平婚姻之事にて騒こし、^[日]本日早朝舂子、^{二日ノ事}渡辺驥君を訪ふ、好は午後來る筈ナリ、長平は勃平の家を探しに行く、家未だ見当らず、午前好来ル、此度勃平家を持ツニ付、月々五拾円宛六百円、関係証書借用、其他入費は未定の分は記さす、山本未帰と報ス、早朝佐野お繁さん、絜君と来り、上領氏の令嬢結納を為ス、^[宛]受令証書あり、本日ノ話にて婚□ 愈十六日と定む、
十二月四日『月』晴、朝洗顔、只払拭のミ、降て麵包、牛乳式合を用ゆ、此牛乳忽ち下利を催したりと見ゆ、二階に昇る、^豚□□□□□、午餐ハ豚猪肉の肩、^糍白飯米の飯、其後表便便、小水ニ行く、其後舂子、きよ子、買物に行く、芝観工場^[勤]ま^まりて、○其留守におすな殿の証書来り、受取を書て遣る、此夜好、周五郎を連れて来る、所謂金子も渡し了す、晚餐ハ豚肉ナリ、
十二月五日『火』晴、早朝小水能く通利ス、其後縁先洗顔、^{□□}す、其後降楼、就食、只牛乳少許、麵包一切、了て昇楼、就寝、午餐ハ豚肉の[□]煮、白飯三椀、寿丸より十二月一日発書状届、親類皆無事ノ由、十月九日夜中両度雪降り、両度とも平和なりと、当地抔より降雪早こを知るへし、午後十一時後より麻布市兵衛町二丁目廿七番地至り、夜に至り帰る、○其後舂子、猶買物に出て、通りに至り、帰て入浴す、夜十時後なり、
△中途
十二月六日『水』晴、早起、湯殿に至り灌腸、其後洗顔、灌水、其後茶ノ間にて麵包一切、其後表便所へ行く、小水通利あり、了て昇楼、其前勃平へ遣はず幅類を見る、○本日また舂子麻布へ行く、○本日朝山本、皇子御命名式拜賀、病氣不得仕之届書

「西周日記」

を宮内大臣宛にて差出ス、○本日昨夜ぼち逃亡ス、○本日十一時後、梅を呼んで小水に行く、其前保辞して母の墓参に行く、○其後十二時山本、宮内省請取を持帰る、○本日南風頗る烈し、午餐ハ鯉黒漿、其後梅に誘れて表便所へ行く、小水通利あり、○本日は舛子は帰らざる由なり、○午前上に上領君より佐野へ媒妁人之事協議無く定めたるは如何といふ事を掛合たる由にて、佐野お繁さん態々来れりとなり、○きよ子は勃平への祝之為、越後屋へ至れりと、○其後ぼち自然に帰り来れりと、余、不自由の脚にて椽側まで出て見たれと見へす、後三時過舛子帰宅、其より佐野氏のことを話ス、

十二月七日『木』晴、本日舛子、七時瀛車にて豊住へ行く、大船直の事を□り横須賀に行くなり、上領立腹ノ事に就てなり、早起、湯殿ニ至り洗顔、灌水、返て茶ノ間にて麵包一切、砂糖茶一枚、其後上樓、裏便所にて小水通利あり、本日赤坂座^{新市村}へ行く、九時半よりなり、九時前安帰宅、其前独手水に行く、元、来て之を扶く、

十二月八日『金』晴、早起、灌腸、通利少し、其後湯殿へ至り洗顔、灌水、返て茶の間にて裕一枚を重襲し、麵包一枚、牛乳壺合^{本品より}、上樓後裏便所へ行く、小水通利あり、其後舛子は佐野氏へ逢対して、婚姻当日の掛合を為し、きよ子ハ証書六百円を差出し、勃平の婚姻預金となしたり、灌腸器は別にいわし屋へ誂へる事となしたり、髮剃刀ハ安に命して買はしむ、夕方新規灌腸来ル、時雄此請取る、午後三時お八重さん、瀬脇令夫人と来訪、二人へ餅菓子を供ス、勃平来ル、晚餐鴨ノ芹焼ナリ、

十二月九日『土』晴、早、新規^灌灌腸器にて^灌灌腸、其後湯に行き洗顔、灌水、返て茶^間の於て麵包一切、牛乳一合、早朝舛子、三田豊住へ挨拶に行く、了て表便所へ行く、本日二時二十分より帰磯を決ス、大磯へハ四時半、五時前着ス、帰宅後松本氏ノ赤飯を食し、直に入浴潮水なり、其後就寝、

十二月十日『日』本日風気に付洗顔、灌水を止めたり、朝裏便所に小便一次、昨夜、暁、本日も多次、本日朝食後一次、試電後に行、其後一次行く、紳六郎より先月十九日之答書あり、十月三十一日発なり、永見裕君より書状来る、お静の文なり、故是す、○午餐後午睡に就く、凡一時、再び寝に就く、中間小水一次ナリ、其後晚餐に従事ス、赤飯ノ沸し、ほらの味噌汁等なり、此時既にいか釣^{ママ}□船のは盛なり、

十二月十一日『月』早起、灌腸、通利あり、其後安に扶けられて湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳壺合、式合あれと吞ます、其後裏便所へ行き小水通利あり、○起時日光を拝す、鋸山に向て左方の処に[□]起れり、先時よりハ余程南に在りて、殆と一間半位南せりと、○其後菊湿電を装して此を掛く、部位等尋常の如し、利薄し、○其後裏便所へ行く、安此を扶く、○其後為吉海水を酌みに行く、○○三時半に入浴潮湯より上りたり、鼻洩頓に止みたり、猶床に就て養生せんと欲ス、晚餐ハ鰻^招鯉、松仙閣松茸料理もあり、満腹ナリ、

十二月十二日『火』晴、朝起、日出を拝したる後、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、
麵包一切、牛乳一合、了て表便所へ行く、安扶之、小水通利あり、其後裏便所へ行く、
小水通利あり、其後湿電一回、旧薬にして利薄し、新薬故にて利替て
利能し、午餐ハ赤飯に比目魚ノフライ、□菜等ナリ、午餐後午睡一時門、其内舂子^(間)
逍遥に出つ、帰宅後裏便所に行き小水通利あり、○本日午後より南風烈し、諸人ハ
之を西風と謂ふ、房州ノ加納山能く見ゆ、○晚餐ハ赤飯三杯、比目魚ノフライ等ナ
リ、本日午後南風ニ而海上白波多く起つ、晩に及んで風□□□なり、

十二月十三日『水』晴、早起、灌腸、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一
切、牛乳壺合、其後裏便所へ行く、小水通利あり、本日呼按摩未至、其後按摩療治
に掛る、九時前より^{十一}時前まで、代拾銭ナリ、○角半兵衛より勃平へ甘鯛^三貳枚、
○百足屋より勃平へ大甘鯛三枚、醴酒貳合分、○入浴潮水四時位□□□、○晚
餐ハ赤飯、若松屋の餅一ツ等ナリ、其より裏便所小水、明日ハ二番瀛車にて東
京行と極む、

十二月十四日『木』本日国府津第二瀛車にて東京発行、車中無異事、横浜より小児を
連れたる夫婦あり、東京に近ふして余の病体を見、中症なりやと問ひ、舂子此に答
て左なりと答たる、別ニ異事無し、舂子ハ帰着午餐の後、勃平の所へ角屋の娘を送
り、帰路に瀬脇へ立寄り診察を受ける積りにて出去れに、余楼上に昇り、井関美德ノ
書状を并ニ豊住好の舂子へ答書を見たり、○本日十六日婚姻式へハ池上重兵衛娘篤
を雇ふ事にて速に幸答を得たり、是一吉事なり、其後幸に安内に在り扶けられて小
用に行き通利あり、時雄来りて十三日より休会となるを報して、此時舂子ハ既に帰
宅せりといふ、○舂子ハ診察を受けたる処胸膜炎の由ナリ、体したる事に非らざる
可しと思ふ、

十二月十五日『金』晴、南風烈し、朝起、茶ノ間に降り、牛乳壺合、麵包一切、其後
昇楼、猶午睡、暫にして下利を覚ふ、特に儀我保太郎君来訪を辱うし、時ならざる
を知れとも、無遽灌腸を用ひ通利沢山あり、乃ち茶の間へ降り儀我氏の賜朝鮮飴を
食し、併甘鯛にて午餐を喫したり、其後勃平来る、明日之事を約して去ル、所謂儀
我の賜ものなる朝鮮飴を食ひ尽す、

十二月十六日『土』晴、天気温和なり、早起、二階を遶り、玄関階子より湯殿に至り
洗顔、灌水、其後茶の間にて復座し、麵包一切、牛乳壺合、了昇楼、時雄に年表の
事を囑せんと欲したれと、既出校後なり、○舂子、朝手伝に來り、松魚節一袋を祝
に持参、其後舂子來り衣替、襲衣なり、を為さしめたり、○本日上領氏の婦入家に
就て諸人多忙なり、○○九時頃より、舂子は上領荷物受取収納之為、勃平麻布市兵
衛町宅へ行く、午後一時過帰宅、時に佐野君既に來り在り、○時雄、新撰年表を求
め来る、○福羽^(逸)免人君より其女子□□を賀し其礼に來れり、

『此夕頗ル酒醴に依り精神錯乱せる件、小水の件あり、』

「西周日記」

十二月十七日『日』晴、朝十時後湯殿に至り洗顔、灌水、其後直に午餐に棲ス、其後夕方淡水入浴、本日朝佐と木愼思来り、甘鯛拾枚位干物にて贈れり、晚餐ハ勃平来ル、夫婦ニ而、カレイを食す、其後昇楼、就床、二十日里帰之由ナリ、勃平縁組届を愈□出ス事ニ決ス、

十二月十八日『月』晴、朝早朝起立、先つ灌腸を行ひ通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶之間ニ着座、麵包一切、牛乳一合、其後上楼、其後裏便所へ行く、小水通利あり、此時佐野のおしげさん来り、了て舂子、きよ子兩人買物に行く、○おしげさん来りて買物に行く、都合甚宜し、○其後瀬脇姉さま来り、勃平の悦をいふ、其後豊住好来り、瀬脇姉と一所にとて、暫く話して皆共に去れり、○佐と木愼思郎より鰹魚節を祝ひ贈越せり、○高木御富さん来賀、鮭の鯨干を周にとて贈れり、○其後鄰のかみさん同しく祝して鰹魚節を贈り越せり、○山内善三郎よりさ利ん一ツ並ニ□□節を歳暮に贈れり、

十二月十九日『火』晴、早起、至湯殿洗顔、灌水、其後茶ノ間にて麵包一切、牛乳一合、□庵等^(餅)を食す、其後表便所へ行く、小水不通、了其後上楼、暫くして舂子、佐野へ行く、其時裏便所ニテ小水通利あり、本日お沙、勃平、夕方に来る、お沙は豊住より直に宿に帰る、勃平晚餐後に来り、暫く話して帰る、お舂、きよ子と瀬脇へ行くの件あり、本晩勃平の話に一月は二三日と休暇ニ付、大磯へ来るへしといふ、○本日亀井家より高橋由一の画之油絵の額を承く、□□□□□、
『本日第五国国停会を命せられ本月二十四日に至る、』

十二月二十日『水』本日朝灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶之間にて麵包一切レ、牛乳壺合を喫し、表便所へ行き、直ニ上楼、○本日朝佐野君来り、昨日の礼を述へ并位階昇進之礼を述へ、且本日勃平夫婦里開之件を述へ帰る、猶宮内省廻礼の話あり、上領氏里開きは、只勃平夫婦にて、只進物^{ホト受る}□受る答なしと、本日十一時四十八分の瀛車にて帰磯之積なり、三時過大磯に届く、帰宅後雨降り出ス、車中薩人と見ゆ小娘子を連れ此同車したり、○帰来れは紳六郎より両度之書状届き在り、一ハ八月卅一日、一ハ九月三日認むとあり、所ハ新城府とあれハ皆ニユカストル出なり、

十二月廿一日『木』晴、昨日雨、其後快晴に赴き、夜中月明かなり、本日冬至、晴、日光を拝したり、鋸山ノ向て右方一間許の所に破光開く、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳一合、其後電湿^{●●}一回、菊之を司ル、頭面脚位等同し、其後裏便所へ行く、小水通利あり、○本日北方霽明、東南も同し、海上風帆依然□帆を、只横須賀対岸は霧深くして□かならず、故に江の嶋も見へさるなり、○午餐ハ岡の粟餅阿倍川にて三ツ、其後しこの酸焼に飯三杯、了て表便所に行き小水十分、○本日横須賀の浦賀湾なる^{イリヤマス}大平斗の辺、砲声時と聞き □□
□○晚餐ハ高木ノ雉肉を葱と一所に煮たるもの也、佳ならさるに非ずして肉堅くし

て食すに佳ならず、夜起□へし外□□□見る、月明かにして漁火能く見ゆ、
十二月廿二日『金』朝起、灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、
麵包一切、牛乳一合、其裏便所へ行く、小水通利あり、其後湿電一回、菊此を司る、
面項背脊脚等同し、本日植木屋、蒿を買ふ事にて紛紜あり、為吉潮水を二度酌ミに
行く、○本日も横須賀対岸霧深くして、江嶋等諸々鮮明ならず、○本日も入谷斗の
砲声時々聞ゆ、○ざるや味噌漉ハ此辺買人無しと見、招仙閣の方へ持参したり、○
午餐ハしこの酸焼、高木の鮭の浦塩製、味佳なり、前裏便所にて小水沢山出つ、○
其□書類中に岡へ送りたる牘を見当らず、怪き事なり、○夫より表便所に行き小水
沢山なり、爰に未だ入浴潮水の湧くを報せず、正に時二時過ぎなり、此時上方より
凧車□□、○三時正に入浴海水、夫より晚餐に就く、其後大光と子宝と□□乾かス
所の□□を収めて此を平くせり、晚餐ハ鯖の味噌煮、高木ノ浦塩□□□□□□等
ナリ、

十二月廿三日『土』朝起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳一合、
其後裏便所へ行かざるに大便急降ル、蓋牛乳の勢と見ゆ、真に大便椅子に就きたれ
と真の下利にあらず、只少く下利したる耳、乃ち払拭して午餐に就く、了て表便所
にて小水沢山通ス、其前菊湿電を試む、乃ち下利前ナリ、然湿電の為に非らずして、
牛乳ノ為ナリ、午餐ハ鯖の焼きたるもの、高木の浦塩干及ひ鮭の子卵等ナリ、○
晚餐ハ大根の飯、鮭の□□□杯ナリ、百足屋の□□等もあり、

十二月廿四日『日』本日は大南風、昨夜は近処にいか釣の漁火も見へたるに、本日暁
より大南風に変したり、朝起、例に依り灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌
水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合、其後表便所へ行く、其後湿電一廻、菊司る、此、
○本日は大南風にて烏帽子岩能見ゆ、其後醴酒三杯を呑む、百足屋昨日之贈物なり、
○本日は朝小雨降りたれと、大南風の為に^{止ミたり}□□出、大南風之為、横須賀沿岸も能く
見るに至れり、大南風之為メ海上白波起れり、○午餐ハ高木の浦潮流瓶乾と飯二椀、
堅餅の象煮もアリ等ナリ、其後表便所に小水に行き、就午睡、午睡後起て再表便所
に至れとも小水出さるを以□なり、入浴に赴きたり、入浴潮湯ハ、水を揚るハ、三
時過ナリ、此時シクネルハまた国府津線に傾けりといふ、○天気ハ大南風之為メ復
したりと見ゆ、然れとも海上の波浪の由に歇渡る、○晚餐ハ鱧ノ清□□□、白飯三
杯、高木ノ浦塩漬、飯後柿^{ニツ}、牀敷一ナリ、愈〜再便所へ行き小水一過、了て
就寝、

十二月廿五日『月』本日も快晴、昨日の大南風ニ而一掃したりと見ゆ、早朝日出鋸山
の□□□□□一間許の処に日出放光、本日は北方正□東方横須賀海岸霧深くして彷彿
たるのみ、早起、湯殿に至り洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳一合、其後裏便
所に行き小水通利ありたり、十時前餅春き了て持来るを報ス、直ニ而餅を食ひ尽ス、
其後菊湿電を掛く、新葉能く利く、部位并二個所ハ同じ、此時午前十時ナリ、江ノ

「西周日記」

鳶の烏帽子岩能く見ゆ、○其後尖餅を食ス、急腹になり、直に裏便所へ行く、通利沢山なり、○午餐ハ□の塩焼、ポツタテス等ナリ、白飯三椀、其後裏便所へ行く、小水通利せり、午後和為貴ヲ論下上と一々索したれとも本語を得ず、後日に譲らん、○晚餐ハ国よしの鰻鯉飯ナリ、

十二月廿六日『火』晴、北風寒し、起、湯殿ニ至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合、其後菊湿電を装して至る、裏便所へ至り、依而此扶く、始メ舂子、本日灌腸ノ日なりと、菊後刻を期してを行はんといふ、遂に裏便所、其後湿電を掛く、個所并ニ数も同じ、○植木屋嘉七より歳暮としてから□鮭壺本を到来ス、○本日時事新報来る、○本日江ノ島の烏帽子岩能く見ゆ、前面崖之下鉄道修繕も見へて、其声能く聞る、○午餐ハ鮭魚の肉等ナリ、其後一睡中和為貴の字を索出して論学^{〔語〕}而在り、其後灌腸^{〔灌〕}を行ひ通利あり、其午前百足屋歳暮の挨拶に来る、依而角の田地の話^{〔話〕}をなす、坪一円位なれば可なりといふ、依舂子ハ買ふ気なり、百足屋、植木屋、招仙閣、乳屋、並に鮭一本を歳暮の礼として贈り越ス、晚餐ハ浅利の指身、味噌煮、牡蠣□□□□、皆味好し、

十二月廿七日『水』本日は朝より雪降、四方海面とも見へず、早朝湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合、其後表便所へ行く、安来りて此を扶く、初舂子、後安ナリ、此時既に時計九時ナリ、九時より菊湿電を装し此を掛く、○昨日上の三寫氏の夫人□せんへいを贈□□□□□、今朝見れば氷掛け薩摩芋なり、金太其水掛を□□して能く食ふ、舂子此を禁して多く与へず、○午餐ハ赤鯛味噌煮、鮭の卵の糠漬、阿部川餅三切等ナリ、○晩飯ハ鮭の卵の糠漬、牛肉等ナリ、○為吉、姉の病気の 到り看病ス、○初帰る、△

十二月廿八日『木』朝起、例に依り湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合、其表便所へ行く、小水通利あり、本日ハ佐土原君の海鳴る事甚し、此時十時前に至り止めたり、○本日は北方東方南方西方とも陰雲多し、唯雨降らざる耳、時正に十時にて国府津瀛車来る、若松屋より砂糖歳暮として到来、其後裏便所へ行く、小水通利あり、○午餐ハ稲田ノ刺身、稲田煮付等ニテ、別に珍味無し、其後本日入浴あるを以て灌腸に従事ス、水はかりにて実物通利なし、江ノ島ノ烏帽子岩一寸見へたれと暫くして見へず、本日国府津瀛車午後二時一分にて三渡通りたり、○其後海水入浴、揚て後午餐に従事ス、○晩飯鮭魚の□□□菜の漬物□□□□□、

十二月廿九日『金』朝天気未定なる処、其後九時後より愈好天気になれり、乾、海上三間許、雪の部分ある、通越したればなり、洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合、其後舂子東京に行く、第一瀛車なり、昨夕豊住より、鴿、ひよ鳥、つくみ、栗、ミル貝五個を贈り越ス、本日先鴿を料理ス、○其後十時に国府津瀛車亦東京降ル少し遅れて東京瀛車来たれり、○本日江ノ島烏帽子岩能く見ゆ、其後表便所へ行く、九時前菊湿電を装す、新薬能く利く、部位個所同じ、○本日大野直和より書状届く、

十二月廿五日出なり、銀行を辞するといふ、□□□□状お信よりの文もあり、午餐ハ●●ノ大根煮也、肉堅くして食ふ可らず、只●●大のミ、次に阿倍川餅ハ切小にして食ふに堪へず、精こハ大切なる可し、遂に腹充て止む、○其後午睡一時間、三時鐘を聞き起見れば四方全霧の深ふし為せり、

『午前十一時半相応ノ地震あり、』

十二月三十日『土』好天気、朝起、先ツ湯殿に至り、舂子に先立て洗顔、灌水、其後就座、朝日漸く昇るを見る、七時過ナリ、其後就座、麵包一切レ、乳牛壺合、了て舂子ハ国府津第二瀛車へ乗らん 山を越へて行く、余ハ見送りに行きたる、安を帰るを待て表便所へ行く、其後瀛車発、大船より豊住へ行くナリ、其後菊湿電を装し此を掛く、部位個所同様、能く利く、此時時雄日記冊子を鎖る、○本日ハ美日ニ付前岡往来の人、又其後裏便所に行く、時雄助之、霧霽れて 江ノ島ノ烏帽子岩能く見ゆ、○本日午後之事業は寿丸、井関美徳へ出書を返答したり、舂子ハ未だ帰らず、四時之瀛車なるへし、猶永見と直和残ル、○其後宮内来ル、林若吉、鎌倉或ル宿屋に在、病気ナリと、本日□^{〔招カ〕}仙閣に宿して、明日鎌倉を見舞ふ積なりと、晚五時前之瀛車にて舂子帰宅、其後宮内給五郎君を訪ふて、若吉氏へ新杵の菓子を贈りたり、

十二月三十一日『日』大祓ナリ、天気晴、寒気甚し、早起、灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳壺合、其後裏便^{〔所〕}へ至り小水一回、時雄扶く、○本日は朝より江の島ノ烏帽子岩能く見ゆ、乃ち海上に屹立す、昨夜舂子、豊住より帰宅之節、豊住より宇仁を贈り越したり、○其後宮内給五郎、九時ノ瀛車にて大船より鎌倉へ行かんとして一寸立寄りたり、直に裏口より立去りたり、山を越さずして彼ノ口より出て、去れり、果して間に合ひしや否、其後只今十時瀛車来れり、○湿電時雄十時より装し此に掛く、十一時に至る止む、其後裏便所に至る、小水通利アリ、○午餐後直に入浴潮湯、揚浴の後大野直和へ答書を出ス、

〔名刺表〕

^{〔活版〕}
高木兼寛妻富子

〔名刺裏〕

^{〔活版〕}
Mrs. Takagi.

九月十一日之頃 勃平復職之悦に来る
歩中佐今非職 上領^{〔方〕}静方 牛込二十騎町八番地
演習行軍^{〔エンシウカウケン〕}

「西周日記」

『南山経済研究』掲載論文の中で示された内容や意見は、南山大学および南山大学経済学会の公式見解を示すものではありません。また、論文に対するご意見・ご質問や、掲載ファイルに関するお問い合わせは、執筆者までお寄せください。

(川崎 勝, E-mail: tanishi9n@jcom.home.ne.jp)